TOYOTA
社会貢献活動
Social Contribution Activities

INDEX

基本的な考え方 P2▸3

ハイライト P4▸5
「30by30」における自然共生サイトへの登録
モバイルトイレが目指す共生社会

共生社会・環境 P6▸14
スペシャルオリンピックス [日本]
トヨタの森 [日本]
トヨタ白川郷自然學校 [日本]
トヨタ三重宮川山林 [日本]
TOYOTA SOCIAL FES!! [日本]
エイブルアート [日本]
モビリティソリューションの積極的な提供 [イタリア]
環境イベントに地元の学生たちと一緒に参加 [フランス]
生物多様性のオアシスとなる森づくり [ベルギー]
子ども向けエコツアー [トルコ]
ISRAEL EARTH PRIZE [イスラエル]
動植物生息地を保護・回復 [アメリカ]
トヨタ・コスタ・ドス・コライスプロジェクト [ブラジル]
農村開発をはじめとした自然共生プロジェクト [中国]
トヨタ・エコユースプロジェクト [インドネシア]
オールトヨタグリーンウェーブプロジェクト [フィリピン]
販売店とともに積極参加する地域の環境保全活動 [ベトナム]
TPSによる企業や団体への効率的改善活動 [アメリカ]
インド政府の結核撲滅プログラムとの連携 [インド]
レクサス・クリエイティブマスターズ [韓国]
レクサス・ヤングファーマーズ [韓国]
サッカー教室を支援 [カンボジア]
ロボコン支援 [カンボジア]
TPSによる中小企業や非営利団体への改善活動 [オーストラリア]

MFA・交通安全 P15▸18
幼児向け交通安全教材の贈呈 [日本]
トヨタ安全かたる／トヨタこどもこうつうあんぜん [日本]
トヨタセーフティスクール [日本]
トヨタ ドライバーコミュニケーション [日本]
いきいき運転講座+神経シゲキ体操 [日本]
若者ドライバーを対象とした交通安全活動を支援 [イギリス]
ソーシャルメディアなどを活用した交通安全啓発活動 [中国]
ホワイトロードキャンペーン [タイ]
トヨタ交通安全教育プログラム [ベトナム]
トヨタ交通安全キャンペーン [ベトナム]
世界水準の交通安全教育を青少年に提供 [オーストラリア]

人財育成 P19▸24
科学のびっくり箱！ なぜなにレクチャー [日本]
トヨタ未来スクール [日本]
『夢の教室』in豊田 [日本]
トヨタ青少年オーケストラキャンプ [日本]
ウィーン・プレミアム・コンサート [日本]
ネットTAM [日本]
豊田工業大学 [日本]
出所後の受刑者の社会復帰を支援 [イギリス]
アフターサービス体制の強化と着実な人財育成 [イタリア]
プロエースの荷台いっぱいの食料品を提供 [スペイン]
STEAM関連のキャリア応援プログラム [ベルギー]
自動車分野の雇用・就学を促進する活動への協力 [イスラエル]
Driving Possibilities [アメリカ]
モノづくりを支える知恵と技能を有した人財の育成 [中国]
トヨタ・アンガンワディ・デベロップメント・プログラム [インド]
トヨタ・ティーチ [南アフリカ]

地域共創・ボランティア支援 P25▸33
トヨタボランティアセンター [日本]
TABLE FOR TWO [日本]
人工林での森林整備ボランティア [日本]
聾学校児童のトヨタ見学会 [日本]
東日本大震災被災地復興支援活動 [日本]
コラム トヨタ災害復旧支援（TDRS） [日本]
トヨタコミュニティコンサート [日本]
トヨタロビーコンサート [日本]
コラム メセナ大賞受賞 [日本]
コーカサス地域におけるさまざまな活動支援 [ジョージア]
大地震後のトルコの人々に避難所を提供 [ドイツ]
無料奉仕プログラム [ベルギー]
ボランティア活動を通じた地域への社会貢献 [ポーランド]
大地震による被災者支援 [トルコ]
自身の知識や経験を生かしたボランティア活動 [アメリカ]
手作りキムチで愛を共有 [韓国]
WPSワールドシリーズとのパートナーシップ [シンガポール]
ガティン活動への取り組みを強化 [タイ]
災害義援金・支援金の寄付 [国内外]

文化・展示施設 P34▸38
トヨタ会館 [日本]
トヨタ博物館 [日本]
コラム 企画展「トヨタ博物館でSDGsを考える」 [日本]
豊田佐吉記念館 [日本]
トヨタ鞍ヶ池記念館 [日本]
トヨタ産業技術記念館 [日本]
富士モータースポーツミュージアム [日本]
コラム 富士モータースポーツフォレスト [日本]

財団 P39▸41
トヨタ財団 [国内外]
トヨタ女性技術者育成基金 [日本]
トヨタ・モビリティ基金 [国内外]
TPSを組み合わせた慈善事業のための寄付 [イギリス]
Good Ideas Change Our World [ポーランド]

社会動向と社会貢献活動の歩み P42▸44

基本的な考え方

世界では環境問題や頻発する自然災害など、地球規模で対応すべき課題が深刻さを増しています。企業も経営の重点テーマにカーボンニュートラル実現を織り込むなど、地球や社会の一員としての積極的な役割が求められ続けています。トヨタの社会貢献活動は“未来にどうありたいか”という視点で具体的な行動を起こし、取り組むべき分野を、SDGs実現に向けた「共生社会」「人財育成*」「地域共創」、トヨタが目指す「Mobility for All」として、誰もが豊かな心で力強く生きていける社会の構築を目指しています。各分野の課題には、「自分事」として「現地現物」で取り組み、自らの力だけで解決できない課題には、未来への志を同じくするパートナーと共に臨み続けています。
トヨタのミッションは幸せの量産。社会貢献活動もまた、このミッションのもと、一歩一歩未来に向けた歩みを進め、自分以外の誰かの幸せのために企業活動を推進します。
体制については、諸活動が円滑に機能するよう、社会貢献活動の専門部署である「社会貢献推進部」や関連部署が、米国・欧州・アジア・中国の各地域統括会社と連携を図りながら活動を推進しています。取り組みの方向性・課題については、執行機能の役割を担うサステナビリティ分科会にて報告・提案し、重要案件はサステナビリティ会議に諮問のうえ、取締役会にて監督・意思決定を図っています。

＊ 人財育成：「人」は一人ひとりが多様で、かけがえのない力を持った存在であると捉え、その力を育むことを意図しています。

SDGs実現に向けたトヨタの取り組み分野

共生社会

自然も人間も多様性が活かされる社会を創る

人財育成

未来のために、人としての豊かさ、生きる力を育む

地域共創

地域に寄り添い、より良い地域を創る

MOBILITY FOR ALL

全ての人に自由で安全な移動を提供する

社会貢献活動の基本理念（1995年制定）

目的	トヨタ自動車株式会社と関連子会社（以下トヨタ）は、豊かな社会の実現と、その持続的発展のため、積極的に社会貢献活動を推進します
取り組み姿勢	トヨタは、社会の幅広い層と力を合わせ、持てる資源を有効に活用しながら、次の世代を担う人材の育成と社会的課題の解決に向けた社会貢献活動に取り組みます
社員の参加	トヨタは、社員が一市民として主体的に行う社会貢献活動を支援します
情報開示	トヨタは、社会貢献活動の成果を開示し、広く社会と共有し、社会の発展に寄与することを目指します
グローバル展開	トヨタは、社会貢献活動基本理念をグローバルに共有し、各国・各地域の実情に合わせた社会貢献活動を展開します

グローバル社会と協調した取り組み

トヨタは社会と協調し、事業活動を通じて社会・地球の持続可能な発展に貢献する取り組みを各地域で進めています。
取り組みの根底にあるのは豊田綱領を始めとした企業理念であり、トヨタの考え方・価値観は国連の持続可能な開発目標（SDGs*）が目指すものと一致しています。

＊ SDGs（Sustainable Development Goals）：2015年9月に150を超える首脳が参加した「国連持続可能な開発サミット」で採択された2030年までの新たな「持続可能な開発目標」で、17の目標と169のターゲットから構成されています。

推進体制

取締役会

サステナビリティ会議

サステナビリティ分科会

社会貢献活動

［関連推進部署］

- 環境エンジニアリング部
  〈 環境分野の教育活動 〉
- 総務部
  〈 地域渉外対応 〉
- 渉外広報本部
  〈 日本自動車工業会関係 〉

［社会貢献推進部］

- 社会貢献自主プログラム活動（共生社会、人財育成、地域共創）
- 従業員ボランティア活動の推進（トヨタボランティアセンター）
- NPO、NGOなどへの活動支援（寄付・協賛など）
- 自動車文化・企業文化の理解活動

［各地域統括会社］

米国	TMNAとアメリカトヨタ財団は、すべての人に無限の可能性をもたらすため、機会へのアクセスの向上を図っており、リソースと知識を共有し、教育、地域社会のサステナビリティ、インクルーシブなモビリティに重点を置いた取り組みを実施
欧州	TMEと各国事業体は、社会にポジティブな影響をもたらすためにパートナーと連携し、共通の価値観に基づいて現地ニーズに応じた活動を実施しており、従業員のボランティア活動、女子学生向けのSTEM（科学・技術・工学・数学）プログラムの推進、弱い立場にあるコミュニティを対象とした教育、災害からの復興に重点を置いた取り組みを実施
アジア	TDEMを中心に、TMAPなどの各国事業体と連携を図り、現地ニーズに応じた社会貢献活動の取りまとめを推進
中国	トヨタ自動車（中国）投資有限会社が関連事業体と連携し、現地ニーズに応じた活動を推進

［関連法人］

- トヨタグループ各社
- トヨタ販売店
- トヨタ財団
- 豊田工業大学
- トヨタ・モビリティ基金

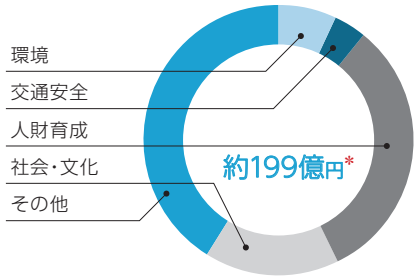
［関連施設］

【環境】
- トヨタの森
- トヨタ白川郷自然學校
- トヨタ三重宮川山林

【交通安全】
- トヨタ交通安全センター モビリタ

【文化施設】
- トヨタ博物館
- トヨタ会館
- 豊田佐吉記念館
- トヨタ鞍ヶ池記念館
- トヨタ産業技術記念館
- 富士モータースポーツミュージアム

2022年度 社会貢献活動費



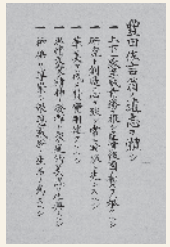
＊ トヨタ自動車と主要子会社（61社）
主要子会社の実績は2022年度平均為替レートで円換算

コラム

人々の幸福を願う 豊田佐吉の「想い」を原点とする トヨタの社会貢献活動

トヨタの社会貢献活動の原点は、トヨタ創業者 豊田喜一郎の父、豊田佐吉にさかのぼります。1925年、佐吉は「人々の生活を豊かにする発明を支援したい」との想いから、画期的な「蓄電装置」の発明を促すため、帝国発明協会に当時の金額で百万円の寄付を約束しました。佐吉が願ったような蓄電装置の発明は大変困難であり、いまも完成していませんが、その後の車載用蓄電池の進歩は、産業や人々の暮らしに大きな影響を与えました。こうした人々の幸福を願う佐吉の想いが、トヨタの「社会貢献活動」の原点となり、佐吉の死後、自動車産業を興した喜一郎らにより「産業報国」「報恩感謝」という言葉で受け継がれ、その後「豊田綱領」に織り込まれ、現在も脈々と受け継がれています。

豊田佐吉


豊田綱領

ハイライト

「生物多様性のための30by30アライアンス」への参画、社有林などを自然共生サイトへ登録

自然共生サイト認定 30by30

環境省 30by30：https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/

2022年12月に開催された生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）で採択された「昆明―モントリオール生物多様性世界枠組み」では、2050年のビジョンとして、「自然と共生する世界」が掲げられています。本枠組みの行動目標として位置づけられた「30by30」は、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させる「Nature Positive」というゴールに向け、2030年までに陸と海の30％以上を健全な生態系として効果的に保全しようとするものです。

2022年4月には、環境省が国内の目標達成に向けたロードマップを策定するとともに、取り組みをオールジャパンで進めるための「30by30アライアンス」を発足しました。トヨタは、日本国内における「30by30」目標達成に貢献するため、アライアンスに参画し、「トヨタテクニカルセンター下山」「びおとーぷ堤」「トヨタの森」「トヨタ三重宮川山林」の4サイトについて、環境省から「自然共生サイト」の認定を取得しました。

トヨタはこれまで、ハイブリッド車やプラグインハイブリッド車、燃料電池自動車といった環境に優しいクルマの開発だけに留まらず、自然共生活動にも積極的に取り組んできました。その背景には、「私たちの故郷である美しい地球を次の世代に残したい。未来のモビリティ社会を、環境に優しく、安全で、笑顔であふれる楽しいものにしたい」という強い想いがあります。2050年の未来に向けた目標「トヨタ環境チャレンジ2050」では、チャレンジの一つに「人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ」を掲げ、活動の輪を世界へと広げてきました。特に森林は持続可能な社会の基盤であることから、社有林を適切な管理のもと、継続的に保有・保全するとともに、社会や地域との連携を重視した活動を進め、従業員もボランティアとして自主的に地域環境の保全に取り組んでいます。

これからもさまざまな事業を通じて培った自社技術やノウハウを最大限活用し、人と自然が共生する持続可能な社会の実現を目指していきます。

トヨタテクニカルセンター下山

所在地
愛知県豊田市・岡崎市

面　積
385ha

概　要
研究開発拠点に隣接する里山環境を維持するために森林の間伐や、水田耕作、草刈を実施し、生物多様性を保全

森林と水田の様子

びおとーぷ堤

所在地
愛知県豊田市

面　積
0.74ha

概　要
生産拠点内にビオトープを開設し、地域本来の生態系保全に貢献

ビオトープの全景

トヨタの森

所在地
愛知県豊田市

面　積
45ha

概　要
里山環境を保全し、整備・調査・地域に開かれた教育の場として活用

サイト内で確認された希少種シデコブシ
（環境省レッドリスト2020準絶滅危惧）

トヨタ三重宮川山林

所在地
三重県多気郡

面　積
1689.53ha

概　要
森林の資源情報に基づいた森林管理、公益的機能を発揮できる健全な森づくりを推進

間伐後の森林の様子

ハイライト

「誰もが自由に移動できる社会へ」モバイルトイレが目指す共生社会

MOBILE TOILET

モバイルトイレ公式サイト：https://www.toyota.co.jp/mobile-toilet/

■ モノづくりの知恵が詰まったモビリティの新しい領域

車いすユーザーや障がいのある方が、外出を躊躇する理由の一つにバリアフリートイレの整備が十分でないことがあげられます。「行きたいところに、使えるトイレが来てほしい」、そんな車いすユーザーの声から生まれたのが2019年にスタートしたモバイルトイレプロジェクトです。

モバイルトイレには、車いすユーザーに、より快適に利用してもらうため、また運用の負担を少なくするためのモノづくりの知恵が詰まっています。

最大の特徴は、大幅に小型・軽量化したことでけん引免許が不要となり、普通車で牽引できるようになりました。設置作業も大人2人で行えば15分ほどで完了できます。他にも、トイレ部分はスペースの節約とトイレの使用回数を増やすため、新幹線と同じ真空式を採用しています。また、上下水道がある場所では直結可能な定置型水洗トイレとして使用でき、ない場所でも100回の使用が可能な水量を搭載するタンクを備えるなど、誰もが使いやすい工夫を取り入れています。

■ さまざまなシーンで広がりをみせるモバイルトイレ

実証実験では、障がいのある方たちのレジャー、就労、教育、防災の場で、バリアフリートイレが不足していることが分かってきています。「行きたい、のそばにトイレが行きます」というキャッチフレーズで進化を続けるモバイルトイレ。その使われ方は日常のさまざまな活用シーンに広がっています。

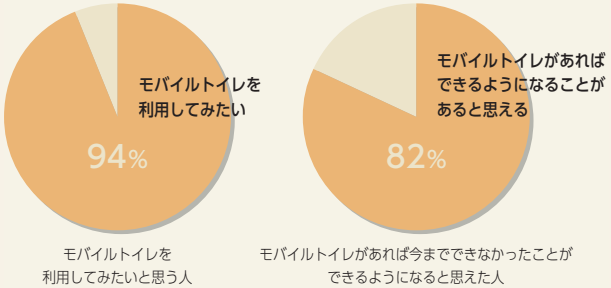
一方で、私たちはフェーズフリーの考え方に基づき、災害などの有事の際にも使えるトイレを提唱しています。トイレの必要性は、日常の楽しみを増やすことや何かに挑戦するためだけではなく、いざというときに命を守るために欠かせないものだからです。有事の際にも使えることで、普段からバリアフリートイレを必要としている方々の避難先の選択肢を増やすこともできます。

誰もが自由に移動し、自分らしくいられる世界を目指すトヨタが掲げるコンセプトは「Mobility for ALL」。さまざまなシーンにおけるモバイルトイレの普及はその実現へ向けて大きく前進するものと考え、2024年の実用化に向けて体制を整えています。

コラム

モバイルトイレがあれば こんなにうれしい

小さい声や届きにくい声に焦点を当てることが私たちの役目。
そんな利用者の方や、導入を検討される方からの声を集めました。



モバイルトイレ体験会アンケート（トヨタ自動車調べ2022年実施）

障害のある方の声	外出先に使えるトイレがあるかはいつも気にしているので、行きたい場所にバリアフリートイレが来てくれるのはありがたいです。
介助者の方の声	バリアフリートイレは増えてきましたが、ユニバーサルシートが設置されているトイレは少ないので介助者としても助かります。
自治体職員の方の声	災害時だけではなく、平時でも公園や観光施設で活用できるのが良い。けん引免許不要なのが嬉しい。

[モバイルトイレ開発・実証実験の推移]

2019年：モバイルトイレプロジェクトスタート
2021年：東京パラリンピックの競技会場などで実働
2022年：実用モデルの完成
2023年：「JAPAN MOBILITY SHOW 2023」会場に出展
障がい者就労／レジャーの場で実証実験
避難所を想定した実証
2024年：能登半島地震の避難所などで実働

共生社会・環境

SDGsへの貢献

基本的な考え方

多様な人々が活躍し支え合って生きる社会。自然の中で、人間も生態系の一員であるという認識に基づき生き物たちと共生する社会。これらはともに、トヨタが目指す多様性が生かされる共生社会です。
豊かな社会の基盤である自然が危機的状況にあるという認識に基づき、生物多様性の保全活動や幅広い世代の人々への環境教育を推進しています。人間社会においても多様性を尊重するとともに、共生社会の魅力を世界の人々に伝える活動を応援しています。また、豊かな社会は、経済と文化の両輪によって実現できるものであり、人の心を動かす多様な価値観に触れる機会の創出にも努めています。

日本　主体：トヨタ自動車

すべての人が参加できる社会の実現を目指してスペシャルオリンピックスをサポート

［ 概要 ］

スペシャルオリンピックス（SO）とは、知的障がいのある人たちにさまざまなスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供している国際的なスポーツ組織です。
その中でも、ユニファイドスポーツ®は、知的障がいのある人（アスリート）と知的障がいのない人（パートナー）がチームメイトとなり、一緒にスポーツをするSO独自の取り組みで、知的障がいのある人の「ために」ではなく、「ともに」スポーツを楽しむという活動です。
トヨタはこれに賛同し、2016年1月にスペシャルオリンピックス日本（SON）とナショナルパートナー契約を締結、2018年1月にはスペシャルオリンピックス国際本部（SOI）とグローバルパートナー契約を締結しました。
大会や日ごろの活動においても、コーチやボランティアとして多くの社員が参画、また、海外ではアメリカ・ヨーロッパの事業体を中心とした連携など、トヨタグループをあげて、すべての人が参加できる社会の実現を目指します。

グローバルパートナー調印式では、SOIとトヨタのトップに加え、多くのトヨタの従業員とSOアスリートが参加

［ これまでの実績 ］

SOイベント累計参加人数：約2万7,600人（内従業員 延べ7,700人）（2023年12月時点）

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/society_and_culture/special_olympics/

2022年第8回スペシャルオリンピックス日本夏季ナショナルゲーム・広島での社員ボランティア

スペシャルオリンピックス・テキサスではユニファイドフロアボールのイベントを開催

日本　主体：トヨタ自動車

森づくりを通して持続可能な社会づくりに貢献する「トヨタの森」

[概要]

愛知県豊田市にある社有林において、かつての里山をモデルに整備するとともに、環境学習のフィールドとして活用しています。45haにおよぶ森林には、生きものの観察など自然に親しむためのエリアや、稀少な動植物の保全のためのエリアなどが整備されており、多種多様な生きものの住処となっています。専任のインタープリターが常駐し、地域の小学校を対象とする体験学習の受入れや、五感を使って自然を感じるさまざまなイベントを企画・実施しています。近年は、環境や生物多様性について楽しく学べるよう、動画を作成、配信しており、小学校の教材の一部として活用されたりしています。

[これまでの実績]

年間参加児童数・来訪者数：約5,000人、約21万8,810人（2023年3月時点）
2015年：「3回 みどりの社会貢献賞」受賞
動画配信数：32本（2023年12月時点）
2023年：生物多様性保全エリアの拡大に貢献する 環境省「自然共生サイト」の認定を取得

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/feature/forest/forest_of_toyota/
https://www.youtube.com/channel/UCuqLB5OG96nbzaoO2oisu3Q

ちびっこワンダーランド 落ち葉にどっぼーん

日本　主体：トヨタ自動車

自然の叡智を大切に、地域に根ざした環境教育を展開する「トヨタ白川郷自然學校」

[概要]

より多くの方に環境に対する思いを深めていただくことを目的として、2005年に白川村・環境NPOと連携し、世界遺産白川郷にトヨタ白川郷自然學校を開校しました。自然や地域との共生を大切に、地域に根ざした環境教育プログラムを充実させ、広く展開しています。
近年はSDGsも意識し、より広い社会課題に対応した取り組みに力を入れています。主に大学生を対象として始めた「SDGs担い手育成講座」では、「誰もが自然と共にウェルビーイングでいられる社会、その社会づくりのプロを目指す」ことを狙いとし、毎年約20名が受講しています。

[これまでの実績]

累計来校者数：約27万9,000人（2023年1月時点）
年間宿泊者数：約1万3,700人
年間プログラム参加者数：約1万2,600人
2015年：「平成27年度青少年の体験活動推進企業表彰」審査委員奨励賞受賞
2023年：「みどりの日」自然環境功労者大臣表彰受賞

https://toyota.eco-inst.jp/

専任インタープリターによるガイド

日本　主体：トヨタ自動車

健全な森づくりと木材資源の活用を目的とした「トヨタ三重宮川山林」プロジェクト

[概要]

トヨタ自動車は2007年に三重県多気郡大台町の山林1,702haを取得し、山林再生の取り組みを始めました。間伐遅れだった森林の整備を重点的に行い、CO_2吸収や水源涵養など公益的機能を発揮できる森づくりを進めています。また、森林の資源情報に基づいた森林管理やクルマづくりの現場で行われている安全確認手順を林業の現場に導入するなど、効率的な森林管理を目指しています。当山林で生産された木材は、トヨタ博物館などの施設で活用しています。2017年から実施している「フォレストチャレンジ・森あげプロジェクト」では、林業だけではない新たな森の活用を目指しており、これまで関心のなかった人達が森を訪れたり木のものを使うことにつながっています。

[これまでの実績]

2010年：FSC®*森林認証取得
2017年：「フォレストチャレンジ・森あげプロジェクト」を実施
2023年：生物多様性保全エリアの拡大に貢献する 環境省「自然共生サイト」の認定を取得

＊ FSC（Forest Stewardship Council®）：環境団体、林産業者、先住民団体などにより設立された「森林認証制度」を運営する非営利国際会員制組織

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/feature/forest/mie/

トヨタ博物館 ブックカフェの床板に使われている三重宮川山林の木材

日本　主体：全国トヨタ販売店、地方新聞社、トヨタ自動車

一般参加型地球環境保護・保全活動「TOYOTA SOCIAL FES!!」(TSF)

[概要]

2012年に始まった「AQUA SOCIAL FES!!」が、2018年度に、もっと地域を、もっと未来を良くするために、「TOYOTA SOCIAL FES!!」に名称を変更しました。テーマは「次世代の環境のために」。川・湖・海・山での清掃活動、外来種駆除、植樹など、地域ごとに多様な活動を、トヨタ自動車と地元販売店、NPO、地方新聞社などが連携し、企画・運営しています。なかには大学が運営母体となって、企業や販売店と連携する自発的な活動も拡大しています。
さらには、大学がTSF参加を単位取得プログラムに認定したり、TSF活動をきっかけに県が環境回復費を予算化したりするなど、社会的波及効果も生まれています。

[これまでの実績]

累計開催回数：946回（47都道府県）
累計参加人数：10万701人（2023年12月時点）

http://toyotafes.jp/

やまぐち森・里・川・海自然再生プロジェクト（山口県）

日本　主体：トヨタ自動車

障がいのあるアーティストが活躍できる環境づくりを応援する「エイブルアート」との協業

[概要]

さまざまな人々が自分らしく生きられる社会の実現を目指し、障がいのあるアーティストが豊かな感性で表現した芸術活動（エイブルアート）を応援しています。1996年から2003年まで、NPO法人「エイブルアート」と協業で、全国各地で「トヨタ・エイブルアート・フォーラム」を開催し、障がいのあるアーティスト活動の基盤づくりを行いました。現在では、トヨタのミッションである「幸せの量産」をテーマにアーティストが描き下した作品をデザインした電気自動車「C+pod」の業務用車ラッピングや、トヨタ自動車パラアスリートとアーティストとの交流を通じた応援グッズ制作などアートやデザインを通した応援をしています。

[これまでの実績]

2020年～：新型コロナウィルス感染拡大防止LINEスタンプ制作
2021年～：社内レストランでの紙コースターラッピング制作
2022年～：業務用車ラッピング制作

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/society_and_culture/domestic/#able

ラッピングした業務用車 電気自動車「C+pod」

イタリア　主体：トヨタモーターイタリア（TMI）

イタリア地域社会への貢献活動として モビリティソリューションの積極的な提供

［ 概要 ］

TMIは、2023年5月にエミリア・ロマーニャ州とトスカーナ州で発生した洪水に対するイタリア赤十字社への支援をはじめ、イタリアパラリンピック委員会やスペシャルオリンピックスとのパートナーシップを通じたインクルーシブな社会の推進など、地域社会への貢献活動の一環として、「Start Your Impossible*」の価値観に基づくさまざまな取り組みを行ってきました。

＊Start Your Impossible：企業としての目指すべき方向性を全社で共有し、広く社会やお客様に示すべく、グローバル企業チャレンジ。人々に寄り添い、皆がそれぞれの可能性にチャレンジできる社会づくりへのサポートを通じて、お客様の生活や社会全体の向上や改善に貢献したいというトヨタの決意。

［ これまでの実績 ］

2023年：スペシャルオリンピックス（SO）と共同で、2023年SO夏季世界大会ベルリンに向けたチームビルディング活動を実施

2023年：車いすフェンシングのフルーレ個人金メダリストBeatrice Vio氏が推進するイベント「Wembrace」のスポンサーを継続

スペシャルオリンピックスの選手たちと、（左）SO国際本部ナショナルディレクターのAlessandra Palazzotti氏、（右）TMI CEOのLuigi Ksawery Luca

フランス　主体：トヨタフランス（TFR）

国境を越え同じ目標に向かって行動する 環境イベントに地元の学生たちと一緒に参加

［ 概要 ］

「ワールド・クリーンアップ・デイ」は、全世界各所で地球を一斉にキレイにする日として、世界180カ国以上、2,000万人以上の人がボランティアとして参加するクリーンアップイベントです。TFRは、パリ近郊のヴォークレソン市と共催した「ワールド・クリーンアップ・デイ」に5年連続で参加しています。2023年は、地元の学校から30人以上の生徒が参加しました。生徒たちの目標は、街を清掃するだけでなく、ごみの分別について理解を深めることです。世界が多様な社会情勢にあるなか、このイベントは一斉に課題解決に向かって行動する挑戦であり、世界をもっと知るキッカケになっています。

［ これまでの実績 ］

2019～2023年：5年連続「ワールド・クリーンアップ・デイ」に参加

地元の学生と一緒にごみ拾い

ベルギー　主体：トヨタモーターヨーロッパ（TME）

地域のパートナーと協力し、 生物多様性のオアシスとなる森づくり

［ 概要 ］

「トヨタの森」は、トヨタが事業を展開する地域社会で、地域の森を生物多様性に富むオアシスに育て、維持するための取り組みで、ここベルギーでは、ザベンテムの自治体やForests Forwardなどのパートナーと協力し活動を推し進めています。

2022年12月、ザベルボスに集まったボランティアは寒さをものともせず、2,000本以上の多様な樹木や低木を植えました。新たに植樹されたエリアは、植栽により樹林周辺の林縁部を強化し、生物多様性を高めます。また、地元の果樹園、1.2haの犬用牧草地、BMXのレースを行うトラックにも植樹する予定です。6ha超だった森は、現在では8.5haに及ぶ人々のオアシスとなっています。TMEは2027年までこの森の整備を支援する予定です。

［ これまでの実績 ］

2022年：ボランティア120人が新エリアに2,000本以上を植樹

ザベルボスに集まったボランティア

トルコ 主体：トヨタモーターマニュファクチャリング～ターキー（TMMT）

自分の目で見て、自分の体と心で感じとる子ども向けエコツアー

［ 概要 ］

トヨタモーターマニュファクチャリングターキーは、2010年に子どもたちを対象としたエコツアーを始めました。この活動は、子どもたちに環境と環境保護意識について学んでもらうとともに、環境配慮型工場としてのトヨタモーターマニュファクチャリングターキーの取り組みを多くの人に知ってもらうことを目的としています。ツアーは、生徒たちが製造環境を実際に目で見て体験することができます。環境をテーマにしたオリジナル短編映画は、鑑賞後にその内容に関する質疑応答を行われます。さらに、廃棄物分別ゲームを行い、ツアー中に学んだことを復習します。ツアーの終わりには、生徒全員に修了証が渡されます。また、参加校には、生徒たちで校庭に植樹してもらうための松の木が贈られます。

［ これまでの実績 ］

2010年：エコツアー開始
累計参加児童数：サカリヤ県内の小学5年生約9,000人
（2024年2月時点）

工場見学の様子

イスラエル 主体：ユニオンモーターズ（Union Motors）

環境問題への関心を高め、積極的に支援する大規模な表彰

［ 概要 ］

ユニオンモーターズは、環境分野の課題がより良い世界とより良い社会を実現する大きな可能性を秘めていると強く信じ、ゼロエミッションに向けた意欲的な取り組みの一環として、イスラエルにおいて環境起業家精神を育むことを目的とした賞「ISRAEL EARTH PRIZE」を創設しました。この賞は、環境リーダーシップに対する単一の賞としては世界最大規模の賞です。
2022年から始めた表彰は、イスラエルの環境・社会活動で知られる専門家の審査のもと、最も価値のある環境の取り組みに対して年間100万シェケル（27万米ドル）を助成します。ユニオンモーターズは、今後5年間はこの活動を続ける予定です。

［ これまでの実績 ］

第1回受賞のNPO団体Venatataは、イスラエルで都市森林構想を推進し、賞金を100カ所のリハビリ施設に設置するセラピー・ガーデンに使用

第1回ファイナリストと、イスラエル大統領、日本大使、TMEのCEOおよびSVP、ユニオンモーターズ経営陣

アメリカ 主体：トヨタモーターノースアメリカ（TMNA）

米国環境教育基金と提携し動植物生息地を保護・回復

［ 概要 ］

TMNAがパートナーシップを結んでいる米国環境教育基金（NEEF）は、「環境をより身近に、親しみやすく、関連性のあるものとして、すべての米国人の日常生活に結び付ける」ことを使命とするNPOです。20年以上前にNEEFの「ナショナルパブリックランドデー（NPLD）」の主要スポンサーとなったことをきっかけに、変化する環境の中で常に先進的であり続けるために進化を遂げてきました。
近年は、STEM教育や地域社会の充実を、「Driving Possibilities」などのトヨタの主要な取り組みと結び付け、米国全土の公有地をより良いものにするためのプロジェクトに複数年にわたり取り組んでいます。他にもNEEFが運営する「生物多様性保全助成金プログラム」を助成し、花粉媒介を行う生物の生息地の創出、回復、保護に努めています。

［ これまでの実績 ］

NPLD累計参加人数、ボランティア活動時間：150万人以上、600万時間以上
「Enhancing Pollinator Habitat（花粉媒介者生息地強化活動）」への助成：7,000エーカー以上の花粉媒介者生息地を改善し、うち300エーカー以上で外来種を駆除

従来の花粉媒介者用花壇作りと車いす対応の花壇作りを手伝うボランティア（2023年）

ブラジル　主体：ブラジルトヨタ（TDB）

沿岸生態系の保護に貢献する「トヨタ・コスタ・ドス・コライスプロジェクト」

［ 概要 ］

世界で2 番目に大きい沿岸生態系保護区「コスタ・ドス・コライス」（406ha）は、1997 年にブラジル政府が保護区として指定しましたが、保護活動が十分ではなく、生態系の絶滅が危惧されています。
TDBが2009年に設立した「ブラジルトヨタ基金（TBF）」は、2011年から、この地域のサンゴ礁やマングローブ林などのあらゆる動植物の保護や、ブラジルでとりわけ絶滅の危機にある水生哺乳類マナティーに関連する生態系の保護を通じて、コスタ・ドス・コライスの環境保護地域（APA）の保全とサステナビリティの推進を目的としたトヨタ「APAコスタ・ドス・コライス」プロジェクトに資金を提供しています。

［ これまでの実績 ］

2011～2023年：8つの保護区の保全、2つの管理計画（保護区使用ガイドライン）の策定、200件以上の科学的調査の実施、マナティー20頭の自然生息地への野生復帰、7万9,000人の地域住民や利用者に対する管理計画の啓発

座礁したアオウミガメの応急処置と保護施設への搬送

中国　主体：トヨタ自動車（中国）投資有限会社（TMCI）

持続可能な開発目標へ貢献する農村開発をはじめとした自然共生プロジェクト

［ 概要 ］

TMCIは、2019年より中華環境保護基金会と手を携えて中国の河北省隆化県でトヨタ隆化自然共生プロジェクトを展開しています。第1期となる2019～2022年は、生物多様性を維持し自然環境を改善すると同時に、3カ所の民家を改造して、低炭素と自然に溶け込む設計理念を採用した生態環境保護の特徴を持つ自然教育基地としました。またリサイクル電池を利用した「太陽光発電＋エネルギー貯蔵」設備を採用することで、エネルギーの節約にも貢献しています。第2期となる2023～2025年は、引き続き生態栽培基地の構築、エネルギー貯蔵設備の建設をはじめ、自然と学びの自然教育などを通じて、人と自然の調和のとれた共生環境の構築を呼びかけています。

［ これまでの実績 ］

2023年：政府関係、大学、メディア、中国トヨタ事業体従業員などのボランティア70人が参加し、無料で診察をする移動病院の見学、自然教育基地の視察、村民との交流、ラズベリー植栽、専門家やメディア懇談会などの活動を実施。

レクサスユーザー向けに現地現物で自然共生活動を実施

インドネシア　主体：インドネシアトヨタ自動車（TMMIN）、トヨタアストラ自動車販売（TAM）

高校生対象の環境改善教育プロジェクト「トヨタ・エコユースプロジェクト」

［ 概要 ］

高校生を対象とした「トヨタ・エコユースプロジェクト」は、「TEY DNA（問題解決方法論）」を用いて環境問題の解決を指導するとともに、環境保全を奨励するものです。実用的な方法を用いることで、生徒の環境意識の向上と責任感の醸成を図っています。TMMINとTAM は、2005年にインドネシア版「トヨタ・エコユース」を始めました。
2022～2023年にかけて開催された第12回大会では、新たなテーマとして「脱炭素化」が導入され、持続可能なプロジェクトのリーダー校として、優勝校のエコプロジェクトモデルが奨励されました。

［ これまでの実績 ］

累計参加校、累計参加人数（インドネシア）：1,650校、生徒・教師6万6,736人（2022年12月時点）

トヨタ・エコユース第12回大会

フィリピン　主体：トヨタモーターフィリピン（TMP）

各地の豊かな森や自然を守る オールトヨタグリーンウェーブプロジェクト

［ 概要 ］

TMPでは2015年より従業員のボランティア活動を推進し、トヨタグループと自然や地域社会をつなぐことを目指して「オールトヨタグリーンウェーブプロジェクト」を実施しています。
これは2050年の未来に向けた目標「トヨタ環境チャレンジ2050」でチャレンジの一つに掲げた「人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ」における環境活動の一つです。TMPはこのプロジェクトを通じて「国家緑化プログラム（NGP）」で選定された各地で、植樹、マングローブの植林、海岸・河川清掃など、さまざまな生物多様性保全活動を実施しています。
2023年には、従業員、親会社、仕入先、フィリピン国家警察、地方自治体からボランティアが集まり、バタンガス州リアンで数千本のマングローブの植林を実施。この活動は「近海魚の生物多様性の中心地」と称されるベルデ島水路の海岸線の再植林を目的としています。

［ これまでの実績 ］

2023年：植樹本数：10万本 フィリピン政府によるNGPがバタンガス州カラタガンのマングローブ植林地（8ha）とラグナ州シニロアンの高地林区（50ha）を選定

バタンガス州リアンの海岸でマングローブの植林に参加したTMP従業員のボランティア

ベトナム　主体：ベトナムトヨタ（TMV）

販売店とともに積極参加する 地域の環境保全活動

［ 概要 ］

TMVはベトナム天然資源環境省（MONRE）の天然資源環境コミュニケーションセンターと協力し、小中学校を対象とした「学校緑化プログラム」に取り組んでいます。2021年からは、生態系の回復と自然災害の防止を目的とした植林プロジェクトにおける首相の取り組みを受け、「緑豊かなベトナムのために10億本の木を植える」プログラムを開始しました。このプログラムでは、マングローブ林や保安林での植樹に力を入れています。2022年からは、「学校緑化プログラム」の一環として学校内でリサイクルコンテストを開催し、子どもたちにリユースやリサイクルを奨励することで、環境保護に関する教育や意識向上に努めています。
いずれの環境活動において、トヨタ販売店やサプライヤーからも多くの参加がありました。

［ これまでの実績 ］

2022年～：「学校緑化プログラム」での累計植樹本数：9,198本（39省86校）

「学校緑化プログラム」で学校敷地内に植林を実施

アメリカ　主体：トヨタ生産方式支援センター（TSSC）

トヨタ生産方式（TPS）による 企業や団体への効率的改善活動

［ 概要 ］

トヨタはコミュニティの支援に取り組んでおり、その最善の方法の一つとして知識の共有に力を入れています。TSSCは、TPS伝授のためにケンタッキー州に設立されて以来30年間にわたり、他メーカー、NPO、地域社会の組織を支援しています。TPSのノウハウを共有し、日常業務でより良い方法を見いだせるよう支援することで、トヨタのパートナー企業は競争力を維持し、雇用を守り、より多くの恵まれない人々を支援することができ、それがあらゆる人にメリットをもたらしています。
医療分野の場合、新型コロナワクチン接種の待ち時間短縮、防護服の生産規模拡大、災害復旧の迅速化、食料安全保障の向上といった効果が見られました。

［ これまでの実績 ］

累計支援企業・団体数：500以上（2024年1月時点）

地域の高齢者に栄養価の高い食事を提供しているミールズ・オン・ホイールズ の日常業務をTPSのノウハウを用いて効率化

インド　主体：トヨタキルロスカオートパーツ（TKAP）

インド政府の結核撲滅プログラムとの連携

［ 概要 ］

インド政府は、2025年までに国内の結核を撲滅することを目的とした「Tuberculosis Mukt Bharat Abhiyaan」に取り組んでいます。TKAPはその主旨に賛同し、ラマナガラ地区の結核患者の栄養管理の強化活動に取り組んでいます。2022～2023年度は、インド政府によるプログラムの一環として、結核治療の基本要件である栄養補助食品を提供して250人以上の患者を支援し、今後も3年間にわたりこの活動を継続します。また、地域内の遠隔地にいる結核患者の発見に活用できる高性能の携帯型X線装置を寄贈し、結核の罹患を特定するためのインフラ支援も行っています。

［ これまでの実績 ］

2022～2023年度：約300人の患者に栄養キットを提供
地区管理局による毎月約450～500人の患者に、罹患の特定・診断で携帯型X線装置を活用

栄養キットの寄贈

韓国　主体：韓国トヨタ自動車（TMKR）

人材育成型社会貢献プログラム「レクサス・クリエイティブマスターズ」

［ 概要 ］

「レクサス・クリエイティブマスターズ」プロジェクトは、新人アーティストの支援とクラフトマンシップ文化の振興を目的とした、人材育成型の社会貢献プログラムです。2017年の開始以来、同プロジェクトでは、自らの信念と価値観に基づいて制作に打ち込む知られざる名匠を発掘。最終当選作に選ばれたアーティストの作品は「レクサス・エディション」として制作・発売されるなど、モノづくりと販売の面でサポートし、より多くの人にクラフトマンシップの価値を訴求しています。
「THE NEXT：未来のクラフトマンシップ」をテーマとして2023年に選ばれた作品は、簡単に捨てられてしまうものを用いたアート作品で、環境と未来への懸念を映し出しています。

［ これまでの実績 ］

選出アーティスト：4人／年（2017年～）
レクサス・クリエイティブ・マスターズ・エディション：累計20作品

2023年受賞作品「Zero Bag」（受賞者名パク・キョンホ＆ホ・イェジン（韓国））

韓国　主体：韓国トヨタ自動車（TMKR）

若手農家を発掘・支援するプロジェクト「レクサス・ヤングファーマーズ」

［ 概要 ］

「レクサス・ヤングファーマーズ」は、独自の価値観に基づき環境に配慮した方法で農産物を栽培している全国の若手農家を発掘・支援するプロジェクトです。2018年に始まったこのプロジェクトでは、選ばれた農家は農業の専門家からの指導や、農業開発への支援金、販促物の制作や農産物の販売に関する支援が受けられます。
また、ソウルにあるレクサスの複合文化施設「CONNECT TO」では、若手農家から提供された食材を使った季節限定のドリンクやデザートを販売しており、同プロジェクトとの長期的かつ緊密な連携を維持しています。

［ これまでの実績 ］

若手農家20人と連携し、「CONNECT TO」で、ヨモギ、韓国メロン、ケール、ブドウなどを使った季節限定の各種ドリンクやデザートを販売

「レクサス・ヤング・ファーマーズ」に選ばれた若手農家の皆さん

カンボジア　主体：カンボジアトヨタ（TCAM）

カンボジアと東南アジアのサッカーを盛り上げるSoriyaと連携しサッカー教室を支援

［ 概要 ］

カンボジア語で「太陽」を意味するSoriya（ソリヤ）は2012年にカンボジアで設立され、孤児をはじめとする子どもたちのために、サッカー教室やスポーツ関連の活動を運営しています。TCAMとソリヤは創設時より連携し、サッカーの練習を通じてカンボジアの子どもたちにより多くの機会を提供しています。年間を通じた協賛により、子どもたちは挑戦やチームワークの価値を深く理解することができ、そのことが選手同士のコミュニティやつながりの構築にも役立っています。

［ これまでの実績 ］

サッカー教室開催数、参加人数：12回、約350人（2023年度）

サッカー教室に参加した子どもたちとコーチ

カンボジア　主体：カンボジアトヨタ（TCAM）

発想する大切さ、モノづくりの素晴らしさを競技を通じてその成果を競うロボコンを支援

［ 概要 ］

カンボジアのロボコンは、電気・機械分野の学生の学びを奨励し、機会を与え、能力やスキルの向上を図るために創設されたロボットコンテストです。毎年開催されるこのコンテストでは、さまざまな大学の学生がチームを組んで手作りでロボットを製作し、国内および国際大会に参加する機会を提供するもので、カンボジアにおけるロボット産業の将来を担う人材を育成する上で重要な役割を果たしています。

TCAMは2014年の開始当初からメイン・スポンサーを務めています。

［ これまでの実績 ］

2023年度：プノンペンのモロドク・テコ国立競技場で第9回コンテストが開催され約300人が参加

王立プノンペン大学で開催された第9回コンテスト

オーストラリア　主体：トヨタ生産方式支援センター オーストラリア（TSSC-AU）

トヨタ生産方式（TPS）による中小企業や非営利団体への改善活動

［ 概要 ］

TMCAは、2017年末の工場閉鎖の決定を受けて、自動車ビジネス以外で地域社会に貢献する方法を模索しました。その一つとして、米国のTSSCの活動を参考にTSSC-AUを設立しました。TSSC-AUのメンバーはトヨタのサプライヤーを支援してきたメンバーであり、これまでもTPSを活用し、薬局での調剤時間の短縮やがんセンターでの患者さんの待ち時間短縮などを実現してきました。2021年には、障がいのある方（要支援ワーカー）を支援する団体をサポートし、要支援ワーカーの皆さんが「Brike（ブライク）」を組み立てられるように、複雑な作業を細分化し、また多くの治具を制作しました。「Brike（ブライク）」は、障がいのある方とその介護者のために特別に設計した電動バイクで、移動の楽しさと、バイクに一緒に乗る喜びを体験していただきました。

［ これまでの実績 ］

TSSC-AU：https://tssc.com.au/

要支援ワーカーの皆さんと一緒に組み立てた「Brike」

MFA・交通安全

MFA (Mobility for All)

SDGsへの貢献

基本的な考え方

障がいのある方も、子どもも高齢者も。誰もが思いのままに、安心して移動できること。これが、トヨタが描く社会の未来像です。一方で、交通事故は移動の自由を妨げる要因のひとつです。交通事故死傷者ゼロ社会の実現に向け、日本国内では、1960年代より、交通安全教育、独自の安全運転プログラムを通じたドライバーと歩行者の意識向上を支援しています。海外事業体でも、各地の課題の解決に向けた取り組みを展開するなど、時代に即した活動を通して、安心安全なモビリティ社会の実現に貢献することを目指しています。

日本　主体：トヨタ自動車、全国トヨタ販売会社など

全国トヨタ販売店などと共同で毎年春に行っている「幼児向け交通安全教材の贈呈」

［ 概要 ］

春の「全国交通安全運動」に合わせ、全国の販売店などと協力して「幼児向け交通安全教材の贈呈」を1969年より実施しています。歩行中の交通事故死傷者数がもっとも多いのは7歳であることから、7歳を迎える子どもたちへの交通安全教材として、絵本を全国の幼稚園・保育園の年長園児向けに贈呈し、幼児の交通事故に多い「急な飛び出しの危険」や「道路の正しい渡り方」を親子で一緒に学べるように分かりやすく説明しています。

［ これまでの実績 ］

絵本発行部数：約203万部（2023年度）
累計絵本発行部数：約1億5,564万部（2023年度時点）
累計紙芝居発行部数：約171万部（2019年度時点）※2020年より休止

キャラクターのひよこの『クック』と園児たち（トヨタ部品大阪共販）

日本　主体：トヨタ自動車

ウェブサイトを通した交通安全啓発「トヨタ安全かたる」／「トヨタこどもこうつうあんぜん」

［ 概要 ］

自動車産業で働く550万人の切なる願いである「交通事故死傷者ゼロ」の社会を目指し、「トヨタ安全かたる ～クルマと語る、人と語る、道と語る～」の新メッセージとともに、交通安全啓発ウェブサイトを開設。このサイトではドライバーや歩行者の方に役に立つ情報を、メーカーや業界の枠を超えてお届けしていきます。
また、「トヨタこどもこうつうあんぜん」のサイトでは、動画や絵本、ぬり絵やゲームなどを通して、楽しみながら、くり返し保護者の方とお子さんが一緒に学べるコンテンツを掲載しています。

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/
https://www.toyota.co.jp/kodomoanzen/

トヨタ安全かたる
～クルマと語る、人と語る、道と語る～

交通安全啓発サイト「トヨタ安全かたる」

日本　主体：トヨタ自動車

地域に定着した子ども向け交通安全教室「トヨタセーフティスクール」

［ 概要 ］

静岡県のトヨタ施設周辺の子どもたちを対象に交通安全教室を開催しています。モビリタでは、実車を使用して実際の交通環境を再現し、「横断歩道の渡り方」や「飛び出しの危険性」を体験学習します。コロナ禍においても、子どもたちが安心して学べるよう、2021年には近隣の小学1・2年生を対象にオンラインセーフティスクールを開催しました。これらのプログラムは、子どもたちが身近な危険を自ら認識し、「気づく能力」を育むためのもので、地域における交通安全啓発活動として今後も周辺自治体と連携しながら取り組んでいきます。

［ これまでの実績 ］

幼児向け安全教室累計参加園数・累計参加者数：3,957園、27万1,814人（2019年12月時点）*

＊ 愛知県、トヨタ会館で実施された実績も含まれています。（2020年活動終了）

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/safety_activities/

オンラインでのセーフティスクール

日本　主体：トヨタ自動車

安全意識向上を目指した安全運転講習会「トヨタ ドライバーコミュニケーション」

［ 概要 ］

トヨタ独自の安全運転プログラムで、2005年に「交通事故死傷者ゼロ」に向け設立された「トヨタ交通安全センターモビリタ」（富士スピードウェイ内）において、一般および企業のドライバー向けに開催しています。このプログラムは、実技形式でスムーズな運転操作や車両の挙動を学んでいただきます。
2019年より、お客様ご自身の運転操作データを可視化し、トヨタの車両開発に関わるドライバーがデータに基づいてアドバイスするプログラムを導入しています。よりクルマへの理解を深め、クルマを操る楽しさや運転を好きになるきっかけ作りにも取り組んでいます。

［ これまでの実績 ］

累計受講者数：約17.9万人（2023年3月時点）

https://www.toyota.co.jp/mobilitas/

日本　主体：トヨタ自動車、全国トヨタ販売会社など

高齢ドライバー・歩行者向け交通安全プログラム「いきいき運転講座＋神経シゲキ体操」

［ 概要 ］

高齢ドライバーの安全運転能力、安全意識と脳機能向上を目的とした「いきいき運転講座*1」と、全身の神経に必要な刺激を与え、身体をイメージ通りスムーズに動かすことができるようになる体操「神経シゲキ体操*2」を組み合わせたプログラムを、自治体や販売店とともに実施しています。

＊1 日本自動車工業会が交通心理や脳科学の専門家とともに開発した「交通安全トレーニング」と「脳トレ」によるプログラム。

＊2 徳島大学名誉教授の荒木秀夫先生が開発した体操。身のこなしがスムーズになることで、運転時のブレーキ・アクセルの踏み間違い、ハンドルの誤操作や判断の誤りなどの交通事故や、歩行時の転倒事故なども回避できる可能性が高くなるといわれています。

［ これまでの実績 ］

2021年11月：神経シゲキ体操オンライン教室（奈良県警・奈良県トヨタ販売店）
2023年4～12月：運転ヘルスチェック98回・延べ488人（神奈川県警・区役所など・神奈川トヨタ自動車）

https://www.youtube.com/watch?v=WwHXgJBTVyA

神経シゲキ体操オンライン教室

イギリス　主体：トヨタグレートブリテン（TGB）

若者ドライバーの交通事故のリスク軽減を目的とした交通安全活動を支援

［ 概要 ］

交通安全活動「Safe Drive Stay Alive（SDSA）」は、英国の交通事故で衝突、負傷、死亡のリスクが高いとされる運転歴の浅い若者ドライバーを対象としており、若者たちに道路利用者としての責任と、それを無視した場合の深刻で悲劇的な結果を認識させることを目的としています。
2005年3月に開始されたこの活動には、サリー州の学校や大学、青少年団体、陸軍基地に所属する16～19歳の若者18万人以上が、演劇をベースとしたライブショーに出演してきました。
サリー州消防救助隊が他の救急隊と協力して企画した、感情描写とドラマを織り交ぜた「Safe Drive, Stay Alive」は、若者の交通安全意識を高め、ドライバーや同乗者の態度にポジティブな影響を与えることを狙いとしとした教育的な作品です。TGBは、ハンドルを握る際のリスクの認識、理解するための学習機会の点から、2012年よりこの活動を支援しています。

［ これまでの実績 ］

2005年以来、16～19歳の若者18万人以上がライブショーを観覧

サリー州消防救急隊が他の救急隊員と共にライブショー出演

中国　主体：トヨタ自動車（中国）投資有限会社

体験型イベントやソーシャルメディアなどを活用した交通安全啓発活動

［ 概要 ］

トヨタ自動車（中国）投資有限会社は2005年より交通事故削減と被害軽減を目的に、大都市で交通安全に関する体験型イベントを実施してきました。2015年には、より多くの方々に関心を持っていただけるよう、交通安全の知識・マナーを織り込んだ漫画やアニメを制作し、SNSや外部動画サイトへ投稿してきました。
2021年、新規プロジェクトを立ち上げ、交通弱者である子ども向けに、「危険から自分を守ろう」をテーマとした交通安全アニメシリーズを作成し、公安部（警察）と連携してオンライン配信を行っています。ディーラーでは、親子向け交通安全イベントを実施しています。またドライビングスクールと提携して、交通安全講座と体験会も実施しています。

［ これまでの実績（2021～2023年）］

交通安全アニメシリーズ制作数、視聴者数：20作品、約732万人
オンライン配信数、視聴者数：2回、807万人
親子向け交通安全イベント実施販売店舗数、参加者数：912店舗、10,717家庭
ドライビングスクールでの交通安全講座実施回数、参加人数：40回、4,800人

交通安全アニメシリーズ

タイ　主体：タイトヨタ（TMT）

大学生が立案する交通安全啓発コンテスト「ホワイトロードキャンペーン」

［ 概要 ］

2014年から始まった「トヨタホワイトロードキャンペーン」でのキャンパスチャレンジは、若い世代の交通安全に対する意識向上を目的に、職業訓練校を含む全国の大学生が、交通事故を減らし、安全意識を醸成するための計画を立案するコンテストです。
TMTは運転行動の本質的な変化を提唱し、効果的に浸透させるため、2023年11月20～26日にかけて「トヨタ・ホワイトロードプロジェクト」のイベント「Jer Gub Tua Studio」を開催しました。このイベントは、シミュレーションを活用して、意表を突くインパクトのある方法で実体験を再現し、スピード違反をはじめとする運転上の過失によって取り返しのつかない事態を招き得ることを訴えました。スタジオでは、このイベントならではの没入感のある体験ができるよう、さまざまなミッションが用意され、参加者は交通事故被害者の生の声を聞くことができました。

［ これまでの実績 ］

2023年11月開催「Jer Gub Tua Studio」累計来場者数：約600人、キャンペーン認知度：5,500万ビュー

TOYOTA White Road “Jer Gub Tua Studio”

ベトナム　主体：ベトナムトヨタ（TMV）

子どもたちの安全意識向上を目的とした「トヨタ交通安全教育プログラム」

［ 概要 ］

TMVは、教育訓練省および国家交通安全委員会と協力し、「トヨタ交通安全教育プログラム（TSEP）」を実施しています。このプログラムは、省単位の交流と全国的な交流という2つの主要な活動に重点を置き、小学生と教師の安全意識を高め、交通安全に参加する習慣と文化を身に付けてもらうために、知識や手法を伝えています。このプログラムには、全国のトヨタ販売店から多くの参加がありました。

［ これまでの実績 ］

交通安全教育に関する小学生向け書籍、ビデオCD累計寄贈数：750万冊以上、8万2,300枚（2018年までのプログラム）
累計全国プログラム実施数：500校で13件（2023年度時点）
教育訓練省プログラム累計実施校数：61州・市で462校（2023年時点）
教師向けプログラム参加人数：4,360人（2023年）

教師向けプログラム

ベトナム　主体：ベトナムトヨタ（TMV）

ベトナムの交通事故率低減にも寄与している「トヨタ交通安全キャンペーン」

［ 概要 ］

「トヨタ交通安全キャンペーン」は、ベトナムの人々が交通安全意識を高め、安全な生活を送られるようにすることを目的としており、ベトナムにおける交通事故の低減にも寄与しています。キャンペーンでは毎年、TMV、国家交通安全委員会、ベトナムテレビ（VTV）が協力して制作し、生放送のテレビ番組「道路のお友だち」が放送されます。また、ベトナム国営放送局（VOV）のラジオでも交通安全のメッセージを伝える番組を提供。2年ごとに行われる全国交通安全映画祭では授賞式を開催しました。さらに、交通状況の改善に活用できる交通安全のアイデアを募集し、交通警察およびダントリ新聞と協力して交通安全の取り組みのコンテストを実施しています。

［ これまでの実績 ］

交通安全メッセージの放送：視聴者数約180万人
全国交通安全映画祭授賞式を開催：受賞数312作品
交通安全の取り組みコンテスト：交通安全のアイデア1,114件

全国交通安全映画祭でTMV代表がグランプリを授与

オーストラリア　主体：トヨタオーストラリア（TMCA）

NPOと協力し、世界水準の交通安全教育を青少年に提供

［ 概要 ］

「Road Safety Education Limited（ RSE）」は、2001年からオーストラリアとニュージーランドで活動を展開しているNPOで、世界水準の交通安全教育を青少年に提供することで人命の保護に取り組んでおり、TMCAは主要パートナーを務めています。
プログラムの中心となっているのは、学校全体で教師をサポートする「RYDA」と呼ばれるパートナーシップです。これは、教師が生徒に必要なツールを提供し、生徒が積極的かつ責任感のある交通市民であることを促すサポートをするものです。ワークショップでは、生徒たちに交通安全に対する理解を深めてもらい、生涯を通してドライバーとしても同乗者としても路上の安全確保に取り組むためのツールを提供するとともに、正しい運転態度と習慣を身につけることを教えています。

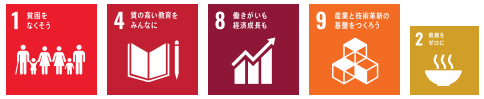
［ これまでの実績 ］

累計プログラム参加受講生徒数：68万5,000人以上（2022年3月時点）

ワークショップの様子

人財育成

SDGsへの貢献



基本的な考え方

「人」は一人ひとりが多様で、かけがえのない力を持った存在です。その力を育み、チャレンジを応援します。取り組みを通してモノづくりの大切さを伝え、心豊かで創造性に富む人づくりを目指しています。この考え方を踏まえ、世代を担う人材の育成に向けて、就労・就学面での支援や、豊かな感性を育み、新しい気づきや新たな価値を引き出せるような活動をグローバルに推進しています。

日本　主体：トヨタ自動車

モノづくりの大切さを伝える科学工作教室「科学のびっくり箱！ なぜなにレクチャー」

［ 概要 ］

青少年の理科離れという社会的課題への取り組みとして、小学校高学年を対象とした科学工作教室を1996年から全国の科学館・博物館などで開催しています。講師はトヨタ技術会*の有志メンバーが勤め、専門分野の知識を生かし、独自に開発したプログラムで子どもたちに、楽しく、わかりやすく教えられるよう工夫を重ねています。子どもたちが自らの力で作り上げていく過程を大切に、どうすれば上手くいくのか？試行錯誤することで探求心や想像性を育むSTEAM教育に取り組んでいます。「モノづくりは人づくりから」。学びの楽しさやモノづくりの大切さを通じて、新しい価値を生み出せる人材を増やしていきたいと考えています。

＊ トヨタ技術会：トヨタ自動車株式会社に所属する技術者を中心に構成された社内団体。会員の技術向上を図り、さまざまな事業の技術分野の発展寄与と地域社会への貢献を目的とする。

［ これまでの実績 ］

累計レクチャー数：約550回（2023年度末時点）
累計参加児童数：延べ3万5,000人（2023年度末時点）

https://www.toyota.co.jp/nazenani/#rec

二足歩行型ロボットの組み立て

日本　主体：トヨタ自動車、全国トヨタ販売店

トヨタの未来への取り組みを伝える出張授業「トヨタ未来スクール（旧トヨタ原体験プログラム）」

［ 概要 ］

2008年より全国の小学校へお届けしてきた出張授業「原体験プログラム」を、2021年春に「未来スクール」へと変更し、新たなスタート切りました。新たなプログラムは、未来を担う子どもたちに、トヨタの未来への取り組みの紹介を通じて、地球環境の大切さや、SDGsの考え方を体験する出張授業で、全国各地の販売店とともに取り組んでいます。対象となるのは小学4～6年生です。理科や社会科の授業の一環として、「体感しながら楽しく学ぶ」をテーマに、カーボンニュートラルや経済とのかかわり、プログラミングなどを学びます。トヨタと未来を一緒につくっていこうと思ってもらえるような活動になることを目指しています。

［ これまでの実績 ］

開催校数・参加人数：273校、約1万3,000人（2022年度）
累計開催校数・累計参加人数：4,476校、約22万人

https://www.toyota.co.jp/miraischool/index.html

プログラミングを通じ未来のモビリティ社会を学習

日本　主体：日本サッカー協会（JFA）、豊田市、中京大学、トヨタ自動車

夢を持つことや仲間の大切さを子どもたちに伝えたい、MIRAIへつなぐ『夢の教室』in豊田

［ 概要 ］

日本サッカー協会が全国107の自治体と取り組んでいる「JFAこころのプロジェクト」。トヨタは2015年度から地元愛知県豊田市で開催される「夢の教室」に支援企業として参加。トヨタの運動部選手や個人アスリート他も夢先生として授業を行います。2023年秋からは、対象を小学生から中学生に拡大し、進路を検討する時期である中学生の視野を広げられるよう技能五輪選手やラリードライバーなど、さまざまな分野の講師を派遣しています。
夢先生は、体育館でのクラス全員で目標を目指すゲーム（小学生）や夢先生のことを知ってもらう出会いの時間（中学生）、教室で夢曲線*を使ったトークの時間を通じて夢を持つことの素晴らしさ、努力を続けることの大切さや仲間の大切さを伝えます。

＊ 夢曲線：夢先生が夢を追いかける過程でどのような困難に向き合い乗り越えてきたのか、その際に何が得られたのかを示すもの

［ これまでの実績 ］

累計開催学校・クラス数（豊田市内）：
小学校：延べ417校、870クラス　中学校：6校14クラス
トヨタ派遣の夢先生数：342人（運動部、個人アスリート、技能五輪選手など）
トヨタグループ派遣の夢先生数：61人（2024年3月時点）

夢先生を務めた勝田範彦氏（TOYOTA GAZOO Racingラリードライバー）

日本　主体：トヨタ自動車

地域の次代を担う若い人材を育成する「トヨタ青少年オーケストラキャンプ」

［ 概要 ］

音楽を通じた青少年の育成を目的に、公益社団法人 日本アマチュアオーケストラ連盟と連携して1985年から毎年実施している3泊4日の音楽合宿研修です。第一線で活躍するプロの音楽家を講師に招き、その指導のもとで全国から集まった青少年が「自分たち自身の手による運営」をモットーに演奏技術を学び、その体験を地元に持ち帰り地域のオーケストラ活動に生かすことが特徴です。2年を1クールとし、2年目にはその成果を発表する演奏会を開催します。これまでにキャンプに参加した卒業生たちは、各地域のオーケストラの中核となり活躍する人、プロの音楽家となる人と、それぞれの道で後進の指導にあたり活躍しています。

［ これまでの実績 ］

累計参加人数：延べ6,300人以上（2023年3月時点）
2014年：「メセナアワード2014」文化庁長官賞受賞

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/society_and_culture/domestic/tyoc/

キャンプ中の練習の様子

日本　主体：トヨタ自動車

世界最高レベルの音楽で感動を届ける「ウィーン・プレミアム・コンサート」

［ 概要 ］

世界最高レベルの音楽を多くの方にお届けするために、ウィーン・フィルとウィーン国立歌劇場のメンバーを中心に特別編成された「トヨタ・マスター・プレイヤーズ，ウィーン」によるコンサートを2000年より開催しています。
次代を担う青少年の方には、豊かな感性を育んでいただく機会とするために「公開リハーサル」「ふれあいコンサート（学校訪問コンサート）」を実施しており、22歳以下の方を対象にした「ハッピーシート（手に届きやすい価格の席）」も設置しています。

［ これまでの実績 ］

累計開催数：18回
累計公演開催数・来場者数：132公演、約21万人（2024年3月時点）※コロナ感染拡大防止および入国規制のため2021・2022年は開催中止

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/society_and_culture/domestic/tomas/

©Eriko Inoue

日本 主体：トヨタ自動車

アートマネジメント総合情報サイト「ネットTAM」

［ 概要 ］

2004年から芸術文化活動をマネジメントする人材の育成および業界の基盤整備と地域社会の活性化、文化力向上を目的に、公益社団法人 企業メセナ協議会と協働し、アートマネジメントの総合情報ウェブサイトを運営しています。1996年より8年間実施した「トヨタ・アートマネジメント講座」のアーカイブをはじめ、コラム、求人情報、助成金情報、TAM講座など、これから学ぶ方から経験者まで、幅広く活用いただける情報を集積しています。第一線で活躍される方々が、さまざまな角度から、アートの現場を伝えています。

［ これまでの実績 ］

2013年：「メセナアワード」タムタムしま賞受賞
2016年：「オリンピアード文化通信」開設
2020年：芸術文化応援プロジェクトを立上げ、「コロナウィルスに立ち向かうためのお役立ち情報」掲載
2021-23年：リアルイベント「TAMスクール」「TAMスタジオPart1 & Part2」実施

https://www.nettam.jp/

日本 主体：トヨタ自動車

国際産業リーダー育成に取り組む「豊田工業大学」

［ 概要 ］

豊田佐吉の遺訓「研究と創造に心を致し、常に時流に先んずべし」を建学の理念に、1981年に設立。教員1人に学生約10人の徹底した少人数制と、実験や実習を豊富に取り入れた体験型学修（実学）により、創造性に富む実践的な開発型技術者を育成し、開学以来の学生の就職率は100％を維持しています。2003 年にはシカゴ大学と連携して「豊田工業大学シカゴ校」（大学院大学）を開校し、情報科学分野での研究交流とレベルの高い国際化教育に取り組んでいます。
2011年の開学30周年を機にキャンパス刷新計画を進めてきた新校舎が、未来型理工系キャンパスとして2020年夏に完成しました。

［ これまでの実績 ］

一般学生の累計就職者数：1,417人*
社会人学生の累計卒業生数：1,548人*

＊ いずれも学部・修士の合計数（2023年3月時点）

https://www.toyota-ti.ac.jp/

豊田工業大学新校舎

イギリス　主体：トヨタ・モーター・マニュファクチャリングUK（TMUK）

刑務所と連携し、出所後の受刑者の社会復帰を支援

［ 概要 ］

TMUKは工場近隣にある3つの刑務所と提携し、受刑者が出所後に社会に積極的に貢献できるよう支援しています。2022年よりシュトッケン刑務所と連携し、刑務所内の自動車修理工場で訓練を受けている受刑者の雇用適性の向上に努めています。TMUKの従業員は、受刑者にTPSの訓練を提供し、出所日に行われる出所者向けの採用イベントやプログラムを支援しています。2023年には、ヨハン・ファン・ゼイル博士の助成金により、教育・育成、ウェルビーイング、雇用適性に関するソフトウェアを搭載したノートパソコンの提供や、出所者の再就職を促進・支援する雇用ハブの開発など、プログラムが拡大されました。

［ これまでの実績 ］

累計TPS訓練者数：約60人
累計ノートパソコン提供数：13台

トレーニング・セッションに参加するTMUKの従業員

イタリア　主体：トヨタモーターイタリア（TMI）

トヨタ技術教育プログラムを通じたアフターサービス体制の強化と着実な人財育成

［ 概要 ］

自動車技術は安全と環境保護への対応から、最新の技術を市場に普及させるとともに、性能を維持させるにはアフターマーケットにこれらに対応したサービス技術が必要です。TMIが2015年に始めたグローバル・プログラムには、イタリアの16地域でT-TEP（Toyota Technical Education Program：トヨタ技術教育プログラム）に認定された学校の1万3,000人以上の学生が参加しています。2023年には、イタリア北部にあるモンツァのT-TEP認定校E. Ferrariが、同年にイタリアで開催されたT-TEP技能コンテストで優勝しました。学生たちは2日間にわたる整備・修理技術の要点を網羅した実技試験に挑みました。

［ これまでの実績 ］

2021年：T-TEP 認定20校目となるローマ校開校
2021～2022年：新トレーニング・プロジェクト「T-TEP 2.0」実施
2023年：モンツァのT-TEP認定校E. Ferrariがイタリアで開催されたT-TEP技能コンテストで優勝

T-TEP技能コンテストで優勝したモンツァのT-TEP認定校E. Ferrari

スペイン　主体：スペイントヨタ（TES）

困窮している方たちのため、プロエースの荷台いっぱいの食料品を提供

［ 概要 ］

「Proace Solidarity」は、困窮している人々のために、トヨタ・プロエースの荷台を従業員から寄付された食料品でいっぱいにする活動で、2023年は2回実施しました。
1回目は3月に行われ、スペイン全土で活動するNGO・スペインフードバンク連盟（FESBAL）のために1,271食分の食料を収集し、併せて3,000ユーロを寄付しました。2回目は10月に行われ、ベビーバンク Fundación Madrinaのために1,500食分の食料を収集し、「One Toyota」として3,000ユーロを寄付しました。

［ これまでの実績 ］

2023年：1,271食分・3,000ユーロ寄付（3月）、1,500食分・3,000ユーロ寄付（10月）

広報チームとプロエースに積まれた食料を受け取るFundación Madrinaの理事長

ベルギー　主体：トヨタモーターヨーロッパ（TME）

次世代のSTEAM関連のキャリア応援プログラム

［ 概要 ］

TMEは、多様なロールモデルを提供するプログラムを実施しています。これは学生たちに刺激を与え、STEAM（科学・技術・工学・教養・数学）関連の仕事でのキャリアパス形成を奨励することで、若者のイノベーションを支援することを目的としています。
Toyota STEAM Dayは、学生が対話形式のワークショップに参加し、トヨタで活躍するエンジニアを見学する機会を提供します。スクールトークは、ロールモデルがゲスト講師となり、自身のキャリアパスとトヨタでの現在の仕事について説明します。イノベーションキャンプは、ロールモデルが参加チームのメンターとなって、サステナビリティの課題に対する解決策を見出します。Inspiringirls Video Hubは、トヨタの女性従業員が自身のキャリアパスや経歴について語る短編動画コレクションで、世界中の女子学生が優れたロールモデルから刺激を受けることができます。

［ これまでの実績 ］

2021～2023年：ロールモデル225人と学生4,700人が参加

ロールモデルから豊田佐吉の経歴を熱心に聞く学生

イスラエル　主体：ユニオンモーターズ（Union Motors）

イスラエルにおける自動車分野の雇用・就学を促進する活動への協力

［ 概要 ］

ユニオンモーターズは、イスラエルにおける自動車分野での雇用と就学を促進することを目的として、多くの協力関係を結んでいます。2014年より、世界的な教育ネットワークORTの一員となって、経済的に困難な状況にある生徒が大半を占める周辺地域の3つの高校で、自動車に関するカリキュラムを提供しています。また毎年提供している寄付金は、年間研修計画の実施に充てられています。これにより、教室での授業と現場のニーズとの結び付きが強化され、学生の目に映る自動車分野の職業イメージが向上します。
またユニオンモーターズは、教師たちを招き、最新の技術革新や改善点を共有することで、学習プログラムの向上にも貢献しています。

［ これまでの実績 ］

累計4,000人以上の学生にプログラムを提供
退学の可能性を低減するための総合的なケアを提供

自動車について学ぶ生徒たちの技術研修

アメリカ　主体：トヨタモーターノースアメリカ（TMNA）

青少年の教育格差改善・キャリア準備と地域コミュニティへのコミットメント「Driving Possibilities（教育基金）」

［ 概要 ］

アメリカトヨタ財団による「Driving Possibilities」は、TMNAとトヨタファイナンシャルサービス（TFS）が拠出する1億1,000万ドルを利用して行われる長期的な取り組みです。これまでトヨタが実施してきたSTEMスクールをモデルにしており、65年以上にわたって全米のコミュニティで展開してきたさまざまな社会貢献活動の経験・ネットワークを生かして、学術界、NPO、コミュニティと連携する包括的な戦略を掲げています。社会的ニーズへの対処を目的とし、米国におけるトヨタの15の事業拠点周辺において、教育格差という課題を抱えている地域社会の支援と発展を目指して取り組んでいます。インディアナ州をはじめとする特に支援を必要とする学校に対し、今後5年間で最大3,260万ドルを助成する予定です。

［ これまでの実績 ］

参加生徒数：6,000人以上

ウエストダラスSTEMスクールで生徒を指導する教師

中国　主体：トヨタ自動車（中国）投資有限会社

地域に根ざす、モノづくりを支える知恵と技能を有した人財の育成

［ 概要 ］

1990年、中国東北部最大の都市・遼寧省の省都・瀋陽（しんよう）市に「遼寧トヨタ金杯技師学院」の前身である「中国汽車工業トヨタ金杯技能工養成センター」が設立されました。当時の中国は、頑丈なクルマへのニーズが高まっていたため、金杯汽車からの技術援助の申し出を受け、「商用車の生産に関する技術援助契約」を締結しました。「中国汽車工業トヨタ金杯技能工養成センター」の使命は、中国のモノづくりを「人財」の面からサポートすることでした。2004年、中国国家技能人材養成突出貢献賞を受賞、2009年には遼寧省の認定で予備技師を育成する資格を取得し、校名を「遼寧トヨタ金杯技師学院」としました。日中双方の努力のもと、技師学院は国家重点技能工学校に認定され、2016年に世界技能五輪大会の中国トレーニング基地として認定されました。

［ これまでの実績 ］

累計卒業生数：約40,000人

トヨタが金杯と設立した遼寧トヨタ金杯技師学院

インド　主体：トヨタキルロスカ自動車株式会社（TKM）

就学前教育の質の向上を目的とした「トヨタ・アンガンワディ・デベロップメント・プログラム（TADP）」

［ 概要 ］

TKMはカルナタカ州政府（GoK）と協力しTADPを活動拠点のアンガンワディセンター（AWC）で実施しています。プログラムは「子どもに優しい施設」「学習を主とした活動」「教師の能力向上」「健康と衛生」の４本柱で構成。AWCの設備や美観・衛生面の整備を含め取り組んでいます。国の未来を担う子どもたちの就学前教育として教師の教育スキルの向上だけでなく、食育および衛生的な調理方法、さらに家庭菜園を推進し、新鮮な果物や野菜の供給を確保し、健康と衛生活動にも取り組んでいます。
2023～2024年度はラマナガラ地区にある150のAWCに協力し活動しました。

［ これまでの実績 ］

累計生徒数：7,131人、380のAWCで実施
2023～2024年：約150人（教師）、約1,900人（生徒）、約150人（協力者）

TADPの様子

南アフリカ　主体：南アフリカトヨタ（TSAM）、南アフリカトヨタ財団

「トヨタ・ティーチ」で初等教育の充実を支援

［ 概要 ］

恵まれない学習環境に置かれている小学校を対象に、教師のカリキュラム政策に対する理解向上と、これによる児童の学力向上を支援しています。教育分野の最新動向や進歩の共有も目的の一つです。2005年からは学校運営全般に関する研修を強化し、学校機能と、小学校入学前の学校に慣れるためのレセプションイヤーから７年生までを対象とした４分野のカリキュラム（数学、母国語としてのズールー語、第一外国語としての英語、自然科学技術）に重点を置いています。2009年からは学校全体への支援アプローチが取り入れられ、３年周期で４～５校を支援しています。

［ これまでの実績 ］

支援実績校数：184校
支援人数：２万6,842人（児童）、730人（教師）（2023年10月時点）

ワークショップ実施後にフォローアップ訪問を行い教師たちの授業をサポート

地域共創・ボランティア支援

SDGsへの貢献

基本的な考え方

地域社会とともに生きるトヨタにとって、地域課題の解決に向けた取り組みは欠かせません。そして、地域に寄り添い、より良い社会を実現するためには、トヨタの持つ技術やノウハウなどのリソーセスの活用が大切だと考えています。トヨタでは、従業員が自発的に取り組むボランティア活動を支援し、支え合える地域づくりを目指しています。日本では「環境」「災害」「福祉」「スポーツ」を重点分野とし、グループ会社とも協力して、地域を取り巻くさまざまな課題の解決につながるような取り組みを推進しています。

日本　主体：トヨタ自動車

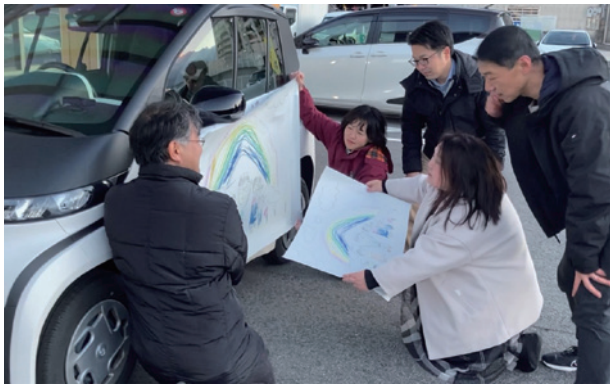
従業員のボランティア参加のきっかけづくりとなる「トヨタボランティアセンター」

［ 概要 ］

1993年に社内に設置され、従業員（家族・OB／OGを含む）を対象に、全工場・事業所と連携してボランティア活動の支援を行っています。「ボランティアに関心はあるが、敷居が高そうで踏み出せない」という従業員に対し、地域の団体から寄せられる活動への参加を呼びかけるとともに、自主プログラムの実施や自宅でできる簡単なボランティア活動の提供など、ボランティア参加のきっかけづくりを行っています。
2018年より、9月を「ボランティアをいつもより身近にする1ヵ月間」として、「ボランティア★しる・する・ひろがる月間」とする活動を継続。食品ロス削減の取り組みとしての「フードドライブ活動」についても継続しています。2023年は従業員が地域に寄り添い、協働しながら困りごとを解決する「TOYOTAのプロボノ」を開始しました。

［ これまでの実績 ］

ボランティア活動参加従業員数：約3万人（2023年）
フードドライブ活動参加従業員数：約2,800人（2023年）
TOYOTAのプロボノ活動（継続案件含む）：8件（2023年）



子どもが書いた絵をクルマに貼り、ドライバーに安全運転を促す「ピースドライブ」

日本　主体：トヨタ自動車

アフリカ諸国給食支援活動「TABLE FOR TWO」プログラムに参加

［ 概要 ］

認定NPO法人「TABLE FOR TWO International」による、飢餓で苦しむアフリカの子どもたちへの支援と、従業員の生活習慣病予防を同時に行う「TABLE FOR TWO」プログラムに賛同。2011年6月より毎週水曜日に、社内食堂でカロリーを抑えたヘルシーランチを食べると、従業員から10円、会社から10円を上乗せした合計20円を、アフリカの子どもたちの学校給食1食分として寄付しています。気軽な支援機会を提供し、多くの従業員のボランティア意識向上を図っています。

［ これまでの実績 ］

国内の全工場・事業所導入食堂数：76食堂
2023年度寄付金額：約270万円（学校給食約13万食分）
累計寄付金額：約3,490万円（2024年2月時点）

https://jp.tablefor2.org/

従業員食堂での喫食でアフリカの子どもたちの学校給食を支援

日本　主体：トヨタ自動車

豊かで美しい森づくりに取り組む「人工林での森林整備（間伐）ボランティア」

［ 概要 ］

愛知県豊田市において、「森林を守ろう！」という有志が集まり、下草刈りや枝打ちなどを行う森林整備活動を2000年より開始しました。2008年には社内にボランティアサークル「トヨタ森林キーパーズ」（2018年8月独立後も連携を継続）を作り、豊田市森林課と協定を結んで市有林の森林整備を協働で実施しています。従業員やトヨタグループ企業も活動に参加し、森の機能を学ぶ啓発活動を行っています。
混みあった木を間引きし、森を健康にする間伐作業は、参加者自身も自然に浸って健康になることができます。

［ これまでの実績 ］

累計活動回数・参加人数：676回、6,635人
累計人工林間伐数：9,419本（2024年1月時点）

健全な森林とするために、安全に十分配慮しながら間伐を実施

日本　主体：トヨタ自動車

社員との交流を通じてクルマとモノづくりへの理解を深める「聾学校児童のトヨタ見学会」

［ 概要 ］

50年以上続く地域貢献活動で、愛知、三重、岐阜、静岡の聾学校の児童をトヨタ会館に招き、クルマとモノづくりへの理解を深めていただきます。この見学会では、聾学校を卒業し、トヨタで働く先輩たちが仕事内容を説明するほか、クルマができるまでの流れなどを学びクルマへの興味と将来への夢を持ってもらえるような機会になることを目指しています。

［ これまでの実績 ］

招待者数：58人（2023年度）
累計開催数：51回（2023年度時点）
累計招待者数：約4,366人

聾学校出身従業員との交流会

日本　主体：トヨタ自動車

東日本大震災被災地復興支援活動

［ 概要 ］

2011年3月11日に発生し、未曾有の被害となった東日本大震災。被災地の皆様が一日も早く平穏な生活を取り戻せるよう、トヨタグループ・関係会社では、同年6月から岩手県気仙地区（大船渡市、陸前高田市、住田町）で、従業員による復興支援ボランティア活動を実施してきました。
2019年に従来型のボランティア活動は終了しましたが、気仙地区の次世代を担う子どもたち向けの科学工作教室“科学のびっくり箱！なぜなにレクチャー”を毎年開催し、その講師ボランティアに形を変え、気仙地区とのつながりを持ち続けています。
また、ボランティア活動以外でも、トヨタではウィーン・プレミアム・コンサートやトヨタコミュニティコンサートを東北で開催するなど、芸術・文化を通じた支援も継続しています。

［ これまでのボランティア活動の実績 ］

2011 ～ 2012年	交通機関や宿泊施設の復旧もままならない中、各社のバスなどで、愛知県あるいは東京都から岩手県へ移動。現地の災害ボランティアセンターなどで活動を紹介していただき、瓦礫の撤去や仮設住宅の整備などをお手伝いしました。
2013～ 2018年	仮設住宅団地での整備や草刈りなどの生活支援のほかに、地元の行政や観光協会、NPOの方々にもご協力いただき、お祭りのお手伝いや子ども向け工作教室なども行い、現地の方々とより深くふれあい、“人と人の交流”を行いました。また、後半は現地ニーズの高い産業再建へのお手伝いとして、りんご農園、ワイナリーのぶどう畑での活動を行いました。

コラム

トヨタ災害復旧支援（TDRS*）
～被災地支援と車中泊避難啓発～

トヨタでは、甚大な自然災害が発生した際、人命第一・地域の復旧を最優先に、現地の被害状況を的確に把握し、迅速な災害支援車両の手配や支援団体への災害義援金の寄付、従業員募金などを行ってきました。
2018年3月には、近年の自然災害の頻発と被災者の避難形態の多様化を背景に、自然災害の発生後の早い段階から被災された方の生活再建のお役に立ちたいと考え、自動車メーカーのリソーセスやこれまで本業で培ったノウハウを最大限に生かしたTDRSを立ち上げ活動しています。

＊ Toyota Disaster Recovery Support

被災地での支援車両

TDRS主要活動分野

自然災害が発生した際はTDRS本部を社内に設置し、現在は下記の主要分野において支援を進めています。

ボランティア活動支援	被災地の状況について自治体や関係団体より情報を入手し、支援先を検討します。支援先が決定次第、従業員を対象にボランティア参加者を募り、被災地での復旧支援を実施します。
災害ボランティアセンター運営支援	災害ボランティアコーディネーター養成講座を修了した従業員を派遣し、被災地の災害ボランティアセンターの運営を支援します。 現地のニーズとボランティアとのマッチング業務などを行い、救護活動を円滑かつ効果的にします。
モビリティ支援	災害発生の際、被災地ニーズとして人の移動や荷物の運搬など、モビリティも活躍します。被災都道府県および社会福祉協議会よりニーズを伺い、現地販売店の協力も得て現場に適した社有車などの貸し出しを行っています。
車中泊避難の支援	被災者ご自身の環境や行政の取り組み、今後想定される大規模地震の予測からも車中泊避難はやまないと推測し、やむをえずクルマを避難先に選ばれた方の「命を守ること」を第一に車中泊避難に関する啓発活動に取り組んでいます。

TDRS活動：https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/tdrs/

「令和6年能登半島地震」への支援について

トヨタ自動車は、「令和6年能登半島地震」における被災地への緊急支援として、以下の活動に当たっています。

2024年1-3月末時点の取り組み

物資提供、車両貸与など
車両販売店、トヨタレンタリース店、トヨタモビリティパーツと連携し、被災自治体などへの物資提供、車両貸与、災害ボランティアなどの支援を実施。地域の方々が本当に必要なものを丁寧に確認しながら、適切な支援活動を進めています。

義援金・支援金
日本赤十字社、社会福祉法人中央共同募金会および特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォームに総額5,000万円を寄付しました。加えて「トヨタ自動車従業員募金」サイトを開設し、集まった募金も被災地支援に寄付します。

車中泊避難のリスクに対する啓発
クルマがやむをえない避難場所となる被災者の方たちに、NPOと連携し、現地へ「エコノミークラス症候群予防に有効とされている着圧ソックス」「車中泊避難ヘルプBOOK」「車中泊避難啓発チラシ」をお届けしました。

継続した支援活動

行政や支援団体とも相談し、トヨタグループで連携した支援を継続しています。

日本　主体：トヨタ自動車、全国のトヨタ販売会社グループ

音楽を通じた地域課題解決「トヨタコミュニティコンサート」

［ 概要 ］

音楽を通じた地域振興を目的に、1981年より公益社団法人 日本アマチュアオーケストラ連盟と連携し、日本各地で活動している地域に根差したアマチュアオーケストラを応援するクラシックコンサートです。クラシックの名曲・大作を中心とした公演をはじめ、オペラ、バレエ、映画音楽、アニメソングなど、さまざまなジャンルのコンサートを開催します。本格的なクラシックファンから、これまでクラシック音楽になじみのなかった方にも気軽に楽しんでいただいています。
40周年を迎えた2021年度より「幸せの量産」の実現に向けて、すべての公演において「音楽を通したSDGs」を重点テーマに取り組んでいます。

［ これまでの実績 ］

累計開催公演数：1,853回
累計来場者数：約142万人（2023年12月時点）

https://www.toyota.co.jp/mecenat/tcc/

「第1728回トヨタコミュニティコンサート（沖縄）」SDGs企画として「フードバンク」への寄付を実施

日本　主体：トヨタ自動車

近隣の方々に気軽に音楽を楽しんでいただく「トヨタロビーコンサート」

［ 概要 ］

トヨタ自動車東京本社の一階ロビーに近隣住民や福祉施設関係者などを招待し、気軽に音楽を楽しんでいただくコンサートを1995年より開催しています。主旨に賛同いただいたアーティストの協力を得て、幅広いジャンルの音楽を提供しており、地域の協力のもと、従業員のボランティアを中心に手づくりで運営しています。
また、来場いただいた方から、使用済み切手、ペットボトルのキャップなどを収集し、トヨタボランティアセンターを通じて、タイ・ラオスの子どもたちの教育や、開発途上国に対する医薬品の供給などに役立てています。

［ これまでの実績 ］

累計公演開催数：49回
累計参加アーティスト数：251人
累計来場者数：延べ1万8,100人（2022年11月時点）

https://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/social_contribution/society_and_culture/domestic/tlc/

テーマ「夏祭り」梵天＜和太鼓チーム＞

コラム

『パンデミックの中でのプチ幸せの量産』が「メセナアワード2021」メセナ大賞を受賞

トヨタ青少年オーケストラキャンプ（2021年3月）6地域の会場を結んだオンラインレッスン

ネットTAMオンライントークを計5回開催（2020年7月～2021年1月）
「芸術文化は不要不急なものなのか？」アート業界の分野を超えて議論

2021年11月、企業メセナ[*1]協議会が主催する「メセナアワード[*2] 2021」において、トヨタの活動「パンデミックの中でのプチ幸せの量産」がメセナ大賞を受賞しました。これまでに培ってきた活動を生かし、コロナ禍による社会の変化に対し、迅速かつ柔軟に対応しながら活動を展開している点を評価いただきました。
2020年、トヨタは「幸せの量産」というミッションを定義しました。コロナウイルスという経験したことのない社会課題の中、移動の自由が奪われ、改めて「移動すること」の嬉しさを多くの人が再発見しました。MOVEという言葉には「動く」という意味もありますが「心を動かす」という意味も含まれています。多くの方々に「ワクワク」をお届けしたい。そんな想いをこめた「幸せの量産」。そのようなミッションの中、私たちに何ができるかをゼロベースで考え、すぐにできることから始めようとした模索の前半期。後半期ではオンライン配信などコロナ禍で新しく培ったノウハウを使っての活動。大上段に構えるのではなく、長く続けてきたトヨタのメセナならではのリソーセスを活用し小さな幸せを積み重ねてきました。すると、リアルでこその活動という固定観念からの新たな発見、アフターコロナの活動への気づきも多い一年となりました。

＊1　メセナ：芸術文化振興による豊かな社会創造を意味するフランス語

＊2　メセナアワード：1991年に創設された企業や企業財団が取り組むメセナ活動を表彰する顕彰制度。「メセナアワード2021」では、2020年に認定された164件の活動より、メセナ大賞と6件の優秀賞が選ばれました。

https://www.mecenat.or.jp/ja/column/interview/12881

ロゴについて

arts in hearts
TOYOTA

トヨタが目指す“いい町・いい社会”づくりへの想いを「arts in hearts」という言葉に込め、アートの力で一人ひとりの感動を呼び起こし、シャボン玉のように生まれ膨らみ集まることによってできた大きな感動のハートです。大きさも色も模様も異なるさまざまな円の集まりは「感動の多様性」を表しています。

ジョージア　主体：トヨタコーカサス（TCA）

「Start Your Impossible」と「Go Beyond」の理念のもと、さまざまな活動を積極支援

［ 概要 ］

トヨタコーカサスは2023年を通して、コーカサス地域における企業の社会的責任に対する揺るぎないコミットメントを示し続けました。「Start Your Impossible」と「Go Beyond」という基本理念を掲げ、インクルージョン、サステナビリティ、地域社会参画の促進を目的としたさまざまな取り組みを積極的に支援しました。
今後もこうした取り組みを継続し、地域社会を支援する新たな機会を模索していきたいと考えています。

［ これまでの実績 ］

2023年：「Start Your Impossible」キャンペーンで障がいのあるアスリートのための特別冬季大会を支援（1月）、パラリンピック活動を支援（5月）
CSR活動の一環としてSchool League of Mini Footballに協賛

障がいのあるアスリートのための特別冬季大会を支援

ドイツ　主体：トヨタ・ドイチェラント（TDG）

大地震後のトルコの人々に避難所を提供したトヨタ従業員の取り組み

［ 概要 ］

2023年2月6日、トルコ南東部とシリア北部で大規模な地震が発生し、何千人もの方たちが一夜にして家屋を失いました。トヨタの従業員の中にはトルコにルーツを持つ者もおり、被災地への避難所提供に個人的に取り組みました。彼らは数日のうちにコンテナハウスを提供する計画を立て、取り組みへの資金提供についてトヨタの経営陣に相談し、快く了承を得ました。ある従業員は、コンテナの設置を監督し、追加で必要となった必需品の提供を手伝うためトルコに10日間滞在しました。
こうした取り組みは、現地の多くの人々の笑顔と感謝の気持ちで報われました。またトヨタグループ従業員の募金活動により、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）に2万2,500ユーロを寄付しました。

［ これまでの実績 ］

UNHCRに2万2,500ユーロ寄付

被災された方たちに提供されたコンテナハウス

ベルギー　主体：トヨタモーターヨーロッパ（TME）

TME従業員によるボランティア活動「無料奉仕プログラム」

［ 概要 ］

TMEは無料奉仕プログラムを強化し、地域社会に貢献するため、長年のパートナーであるServe the Cityと新たなプログラムを立ち上げました。このプログラムでは、チームビルディングのコンセプトに基づき、従業員がグループとなってブリュッセルの福祉施設でホームレスや難民の方たちの昼食の準備や配給を行うServe the Cityのお手伝いをしています。従業員にとっては、やりがいのある活動に携わり、新たなスキルを身に付け、チームの絆を深める機会にもなっています。

［ これまでの実績 ］

2022～2023年：945人のボランティアがServe the Cityをお手伝いし、2万8,258袋の昼食の用意と、2万6,568食の温かい食事を配給

Serve the Cityを手伝うTMEの従業員

ポーランド　主体：トヨタモーターマニュファクチャリングポーランド（TMMP）

ボランティア活動を通じた地域への社会貢献

［ 概要 ］

2009年、TMMPは「PoMOC z Toyoty（トヨタからの支援）」と名付けたボランティア活動を始めました。これは従業員たちが、学校やスポーツ・クラブ、児童養護施設といった地域の団体や機関への働き掛けを通じて、地域社会の発展に貢献する活動です。また、活動的なボランティアたちが立ち上げた「ボランティア・クラブ委員会」では、全社的なボランティア活動を計画したり、体験や優良事例を共有したりしています。前年に2つ以上の活動に参加した熱心なボランティアは、経営陣から表彰され、特別なボランティア・バッジが授与されます。

［ これまでの実績 ］

2023年ボランティア活動：65件
累計ボランティア活動：600件以上（2023年12月時点）

ボランティアに参加する従業員

トルコ　主体：トヨタモーターマニュファクチャリング～ターキー（TMMT）

大地震による被災者をさまざまな側面から支援

［ 概要 ］

2023年2月6日に発生したトルコ南東部とシリア北部の大規模な地震当日に、TMMTは被害を受けたトルコ南東部の10都市に向けて、直ちに緊急物資を積んだトラックと救助スタッフを派遣しました。その後も多くの食料や物資を届け、仮設キッチンを設置しました。また、被災者を現地から避難させてTMMTのゲストハウスを宿泊場所として提供しました。その間、TMMTとその従業員や欧州各国のトヨタグループが協力し、200万ユーロ以上の寄付金を集めました。救援支援、支援物資をはじめ、独自の住宅建設プロジェクトや、教育支援として幼稚園と学生向けの教育センターを建設しました。現在、TMMTは新たなプロジェクトとして「Women's Touch to the Future Step 2 within Earthquake Region」を立ち上げ、被災地の支援を続けています。

［ これまでの実績 ］

救助支援：被災者19人と犬2匹を救助
支援物資：トラック5台分の緊急支援物資、コンテナハウス12棟、テント22張りを提供
被災者受け入れ：TMMTのゲストハウスで28人を受け入れ

TMMTのゲストハウスに受け入れた被災者の方たち

アメリカ　主体：トヨタモーターノースアメリカ（TMNA）

自身の知識や経験を生かしたボランティア活動で社会へ恩返し

［ 概要 ］

TMNAの従業員は、コミュニティへの貢献に意欲的で、自分の時間、知識、スキルを分かち合うことで、教育成果の向上、重要なニーズへの対応、機会へのアクセス向上に取り組んでいます。TMNAはこうした従業員に対し、「Toyota4Good」プログラムを通じて、従業員の寄付に対してマッチングギフトを行ったり、ボランティアの活動時間に応じた助成金の支給や、NPOの役員を務めた者には特別助成金を授与したりしています。ボランティア活動にはメンターシップをはじめ、読解力の向上、金融リテラシーの教育、リーダーシップの育成、STEMカリキュラムの支援など多岐にわたり、従業員はさまざまなカタチで社会への恩返しをしています。

［ これまでの実績 ］

ボランティアとして参加したNPO数：995団体（2023年）
「Toyota4Good」におけるボランティア活動時間：4,990万時間（2023年）
NPO役員を務めた従業員に対する特別助成金授与件数：231件（2023年）

コロナ禍救援活動の一環として食料支援パッケージを準備

韓国　主体：韓国トヨタ自動車（TMKR）、トヨタ販売店、レクサス販売店

手作りキムチで愛を共有

［ 概要 ］

2012年にスタートしたボランティア活動「キムチで愛を共有」は、公募で当選したトヨタの週末農民が、自宅の庭で採れた野菜でキムチを作り、恵まれない人々に寄付する社会貢献プログラムです。TMKRの従業員も毎年参加し、キムチを作って社会福祉法人に届けています。
2021年は「町いちばん」活動の一環としてプログラムを拡大し、全国16店のトヨタ販売店およびレクサス販売店の従業員約300人が参加してキムチを作り、各地域の児童養護施設や公民館に届けられました。

［ これまでの実績 ］

2019年：5,000万ウォンを韓国農業連盟に寄付
2023年12月：23トンのキムチを作り、ホームレス支援施設「アンナ・ハウス」など16の社会福祉団体に提供
累計ボランティア参加人数：1,700人以上（2023年12月時点）

「キムチで愛を共有」に参加した従業員

シンガポール　主体：トヨタモーターアジアパシフィック（TMAP）

世界パラ水泳連盟（WPS）ワールドシリーズとのパートナーシップ

［ 概要 ］

WPSワールドシリーズは、パラ水泳のトップアスリートのための権威ある国際水泳大会です。2023年のワールドシリーズは4大陸9カ国で開催され、シンガポールはアジア唯一の開催地となりました。
トヨタは、2023年にシンガポールで開催された「シティパラスイミングワールドシリーズ」で、2年目となる現地組織委員会メインスポンサーを務めました。トヨタの参加はパラスポーツの認知度向上に重点を置いたグローバルな取り組み「Start Your Impossible」に基づくものです。協賛以外にも、トヨタの従業員が大会ボランティアとしてパラアスリートのサポートや競技運営を行う機会も設けました。ボランティアに参加した従業員は、その体験を通じて、トヨタがスポーツを支援する目的「Start Your Impossible」に込められた意味、企業ビジョン「Mobility for All」との関連性の理解を深めました。

［ これまでの実績 ］

「シティパラスイミングワールドシリーズ」ボランティア参加人数：19人（3日間）

パラアスリートとボランティア参加した従業員

タイ　主体：サイアムトヨタマニュファクチャリング（STM）

タイの文化と仏教を広め、保護するガティン活動

［ 概要 ］

STMは、タイの伝統と文化を促進するため、2021年からガティン（功徳）活動を行っています。2023年は、従業員や誠実な企業と共に、チョンブリー県のBunyarasri寺院でガティンセレモニーを開催しました。これは、タイの良き伝統である仏教の伝統を広め、必要な物資がまだ不足している寺院のために宗教施設などを建設するほか、STM近隣の社会やコミュニティにとって有益な活動を推進する取り組みの一環です。今後もガティン活動への取り組みを強化し、従業員による年に一度の大規模な功徳活動として最優先に取り組みたいと考えています。

［ これまでの実績 ］

2023年寄付金額：119万3,999バーツ

2023年11月に行われたセレモニー

国内外　主体：トヨタ自動車

国内外における自然災害発生時に災害義援金・支援金の寄付などを実施

［ 概要 ］

甚大な自然災害が発生した際、何よりも「人命第一」「地域の復旧」を最優先に、トヨタ自動車は支援活動を行っています。国内では、現地の被害状況を的確に把握しつつ、できる限り迅速に、被災され、困っている方々へ支援が届くように、日本赤十字社、中央共同募金会、ジャパン・プラットフォームをはじめとする団体へ災害義援金・支援金を寄付しています。
また、海外では、現地事業体を窓口に被害状況の把握に努め、その国の赤十字社やユニセフなどへ、日本からの寄付を現地統括会社・事業体・代理店と共に「One Toyota」としてお届けしています。

［ これまでの主な実績 ］

【海外】

2019年11月	豪州大規模森林火災
2022年1月	トンガ沖大規模噴火・津波被害
2023年2月	トルコ南東部地震
2023年9月	モロッコ地震
2023年9月	リビア洪水

【国内】

2011年3月	東日本大震災
2016年4月	熊本地震
2018年7月	西日本豪雨災害
2018年9月	北海道胆振東部地震
2019年10月	令和元年台風19号
2020年7月	令和２年７月豪雨災害
2021年2月	令和３年福島県沖地震
2024年1月	令和６年能登半島地震

文化・展示施設

基本的な考え方

トヨタは、先人たちの熱い思い「モノづくりを通じた社会への貢献」「時流に先んじた研究と創造」の精神を受け継いでいます。
その精神や理念を、人とクルマの豊かな未来のために、自動車文化・モノづくり文化として継承していくことに力を注いでいます。

日本　主体：トヨタ自動車

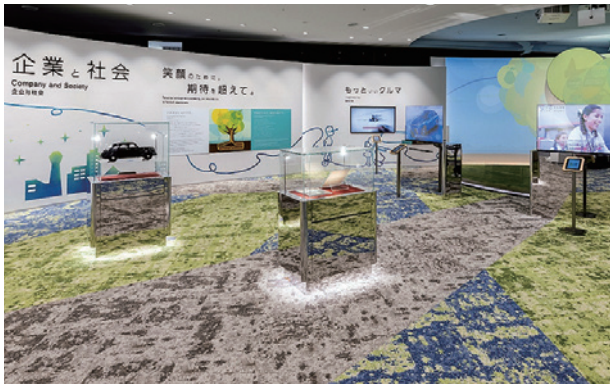
ビジョンや最新技術の情報を発信する「トヨタ会館」

［ 概要 ］

トヨタ会館は、「幸せの量産」を目指すトヨタ自動車の「今」が分かる企業展示館です。最新の電動化技術や安全技術、モビリティ、社会貢献活動など、トヨタのさまざまな取り組みを映像や展示物、体験物で紹介しています。気軽に触れて乗り込める新型車も常時多数展示しています。また、社会貢献の一つとして小学5年生向けに自動車生産について学べるオンライン授業も行っています。

設立：1977年11月
所在地：愛知県豊田市トヨタ町1番

http://www.toyota.co.jp/jp/about_toyota/facility/toyota_kaikan/index.html



日本　主体：トヨタ自動車

世界の名車から自動車の歴史が学べる「トヨタ博物館」

［ 概要 ］

自動車の発展に貢献した世界の名車約140台を展示し、世界と日本の自動車産業がどのように絡み合いながら進歩してきたかを紹介しています。実際に走ることのできる状態、「動態保存」しているのが特徴です。約4,000点の資料を展示した「クルマ文化資料室」、日本自動車産業の成り立ちを紹介する「クルマづくり日本史」コーナーもあり、多角的に学ぶことができます。年に3回ほどの企画展、クラシックカー・フェスティバル、学校向けプログラムなどからも、クルマ文化の醸成を目指しています。

設立：1989年4月
所在地：愛知県長久手市横道41番100号

https://toyota-automobile-museum.jp/

コラム

博物館としての願いを込めた企画展「トヨタ博物館でSDGsを考える」

トヨタ博物館：https://toyota-automobile-museum.jp/

一緒に考える関係を求めて

トヨタが「人と車の豊かな未来のために」1989年に設立したトヨタ博物館は、“Sustainability”というテーマに継続的に向き合うことを使命として捉え、企画展「トヨタ博物館でSDGsを考える」を2021年から開催してきました。企画の背景にあるのは、子どもたちや若い方たちに、社会全体の状況と身近な問題を正しくお伝えすることで、より良い未来を築くための行動につなげていただきたいという想い。一人ひとりの小さな積み重ねがこれからの未来を大きく変えていくことになると考えているからです。SDGsをより身近に感じていただき、現状と課題を学んで未来のために自分ができることを考えていただける企画展がここにあります。

第1回　2021年7～10月　入館者数 3.6万人

テーマ　**SDGsとはなにか、17の目標と169のターゲットを、車両3台とともに紹介**

- クルマが主でない初の企画展
- 日本発祥の初期のモビリティで移動の促進や雇用の受け皿でもあり、さまざまな社会的課題の解決に貢献した明治後期の人力車などを展示

第2回　2022年7～10月　入館者数 5.0万人

テーマ　**カーボンニュートラルをメインテーマに、クルマと食品ロスにフォーカス**

- 食の観点でカーボンニュートラルによるCO_2削減、自動車リサイクルの観点でサーキュラーエコノミーによる資源循環を一緒に考える内容
- 実車を使った車中泊避難のポイントを紹介

第3回　2023年8月～2024年1月　入館者数 11.0万人

テーマ　**カーボンニュートラルをメインテーマに、クルマとゴミにフォーカス**

- 低炭素エネルギーのモビリティの例として、電動車、バイオディーゼル車、ソーラーカーなどを展示
- 来場者による、SDGs達成のためのご自身の取り組み事例の発信、情報共有になるよう、参加型コーナーを設置

トヨタイムズ「すごい未来が待っている!? 夢のクルマが伝えたいこと」：https://toyotatimes.jp/spotlights/1041.html

担当者の声

SDGsやカーボンニュートラルは暮らしを制限するものと思われがちですが、その先には明るい未来が続いています。そんなメッセージを年齢や世代を問わず感じて欲しいと考えています。そのため、会場では幅広いクルマを展示し、未来へのワクワクを感じられる場所にしました。

社会貢献推進部 トヨタ博物館 藤井麻希 ▶

我々も展示の準備をするまで知りませんでしたが、近ごろニュースで見る機会が少なかったこともあり、ソーラーカーの研究は今も続いていることに驚きました。来館した多くのお客様からも同じ声があがっており、これからの実用化に期待が膨らんでいます。

社会貢献推進部 トヨタ博物館 小室利恵 ▶

日本　主体：トヨタ自動車含め20社

日本の産業の発展に寄与した佐吉の生涯を体感できる「豊田佐吉記念館」

［ 概要 ］

敷地内には、母屋や佐吉が研究を続けた納屋、佐吉の生家（1990年に復元）などがあります。また、佐吉が最初に発明した豊田式木製人力織機や無停止杼換式豊田自動織機（G型）、特許証などゆかりの品々の展示と、佐吉の生涯を描いた映画を通じて彼の志や情熱を感じ、親しんでいただけるようにしています。

設立：1988年10月
所在地：静岡県湖西市山口113番2号
https://global.toyota/jp/company/profile/museums/sakichi/

日本　主体：トヨタ自動車

創業期の歩みとともに映像などで紹介する「トヨタ鞍ヶ池記念館」

［ 概要 ］

創業者・豊田喜一郎と仲間たちが、わが国における本格的な自動車工業の確立に大いなる夢を抱き挑戦し、幾多の困難に立ち向かいつつ乗り越えた軌跡を、写真や映像、ジオラマ、実車で紹介しています。また、喜一郎が1933年に建てた別荘を記念館の一角に移築修復しており、往時を偲んでいただくこともできます。

設立：1974年9月
所在地：愛知県豊田市池田町南250番
http://www.toyota.co.jp/kuragaike/

日本　主体：トヨタ自動車含め17社（トヨタグループ）

モノづくりの大切さを次代に伝える「トヨタ産業技術記念館」

［ 概要 ］

トヨタグループ発祥の地である旧豊田紡織本社工場跡に残されていた当時の建物を利用して建設。建築史的に評価された赤レンガの建物を、グループ全体の歴史的遺産として保存・活用し、「研究と創造の精神」と「モノづくり」の大切さを広く社会に伝えることを目的に設立しました。
トヨタグループの歴史とともに、繊維機械と自動車技術の変遷を本物の機械の実演や解説映像でわかりやすく紹介しています。

設立：1994年6月
所在地：愛知県名古屋市西区則武新町4丁目1番35号
https://www.tcmit.org/

日本 主体：トヨタ自動車

モータースポーツがクルマを鍛え、進化させた熱い歴史をたどる「富士モータースポーツミュージアム」

［ 概要 ］

「富士モータースポーツミュージアム」は富士スピードウェイ隣接地にオープンしました。国内外自動車メーカーの連携による常設展示は、モータースポーツミュージアムとしては世界初の試みといえます。「クルマづくり」にモータースポーツが果たした役割、という視点からその系譜をひもときます。最高峰レースに出場した伝説の車両や日本初公開の車両が含まれる約40台の体系的展示や、量産車メーカーの創業者がモータースポーツ車両開発にかけた想いも盛り込み、約130年間のレースにまつわる歴史を紹介します。
レースの熱気の背景にあるクルマを鍛える場としてのモータースポーツの魅力と意義をお客様にお伝えすることが、このミュージアムのミッションです。

設立：2022年10月
所在地：静岡県駿東郡小山町大御神645
https://fuji-motorsports-museum.jp/

コラム

クルマ愛が、集い、育つ場所、「富士モータースポーツフォレスト」

未来のモビリティ・モータースポーツの街を目指して

国際サーキット「富士スピードウェイ」を中心に広がる新たなエリアとして、ラグジュアリーエクスペリエンスを提供する「富士スピードウェイホテル」、時代を象徴するレーシングカーを展示する「富士モータースポーツミュージアム」、国内有数のレーシングチームのガレージ、より多くの方に立ち寄っていただける温浴施設、レストランなど、モータースポーツ文化を楽しめる多彩な施設から構成されています。

フォレストのミッションは、モビリティとモータースポーツの魅力を知り、楽しみ、参加することで、人生をより豊かに・幸せになっていただける「大人の遊び場・社交場」を目指すこと。そのために、エリア内の各施設では、モータースポーツ好きの大人はもちろん、ご家族、ご友人で楽しめるさまざまな体験を順次提供していきます。

https://fuji-motorsports-forest.jp/

モータースポーツ130年の歴史を堪能「富士モータースポーツミュージアム」

2022年10月、「モータースポーツがクルマを鍛え、進化させた熱い歴史をたどる」をタグラインに、富士モータースポーツミュージアムがオープンしました。

出展・写真協力：マツダ株式会社

ミュージアムは富士スピードウェイに隣接し、富士スピードウェイホテルの1、2Fにあります。ホテルと融合した特別な空間において、モータースポーツ黎明期から現代までの発展を約40台の時代を象徴するレーシングカーで紹介しています。また、展示車両は定期的に連携各社の協力により入れ替えを行っています。

一点もののレース車両を集めるのは困難を極めましたが、自動車メーカー各社が施設のコンセプトに賛同いただいたことで、レースでしのぎを削ったライバル車両が一堂に会した貴重な展示空間が生まれました。展示エリアは、車両やパーツ、関連資料を順にたどることができ、人物に焦点を当てたコーナーには、量産車メーカーの創業者がモータースポーツ車両開発にかけた想いが盛り込まれ、約130年間のレースにまつわるモータースポーツの歴史をご覧いただけます。展示車両は、ラリーや耐久レースといったさまざまなレースカテゴリーの参戦車両から厳選し、世界のモータースポーツ史に歴史を刻んだ名車が堪能できます。

さらには近年のカーボンニュートラルへの取り組みをテーマとした水素燃料やバイオ燃料でのレース活動も紹介しています。ミュージアム3階には全長50mのテラスのあるカフェがあり、富士スピードウェイの壮大なパノラマとコーヒーを楽しむことができます。

https://fuji-motorsports-museum.jp/

ウェルカムセンター／ルーキーレーシングガレージ

モータースポーツへの挑戦や取り組みをお伝えする企画展示をはじめ、エンジニアやメカニックが真剣に働く様子などを目するることができ、幅広いお客様に無料で楽しんでいただけます。

富士スピードウェイ

全長4,563mの国際レーシングコースを中心に、カートコースからショートサーキットまで、さまざまなモータースポーツ関連施設を用意しています。レース観戦はもちろん、レーシングコースを気軽に楽しむことができる体験走行などのコンテンツも用意しています。

富士スピードウェイホテル

「モータースポーツとホスピタリティーの融合」をコンセプトに開業しました。富士山とその麓の美しい自然に囲まれた「静と動が共存」する唯一無二の環境で、ユニークな滞在を提供します。

財団

基本的な考え方

財団は、長期的かつ幅広く社会活動に寄与し、時代のニーズに対応した課題をとりあげ、それらの活動に対して支援・助成を実施しています。

国内外　主体：公益財団法人 トヨタ財団

グローバルに、NGO／NPOの活動や若手研究者の研究を支援する「トヨタ財団」

［ 概要 ］

トヨタ財団は、世界的視野を持って時代の要請に対応した課題に取り組む活動や研究に対して助成を行うべく、1974年に設立されました。現在は、日本や地域社会における社会サービスの創出や人材育成を図る活動への助成（国内助成）、日本・東アジア・東南アジア・南アジアが共有しつつある、高齢化・多文化社会などの課題について、学び合いや政策提言を行う活動への助成（国際助成）、若手研究者が中心となり、既存の枠組みに捉われることなく、自由な発想のもと社会システムの変革に取り組む研究への助成（研究助成）など、さまざまな助成プログラムを展開しています。

［ これまでの実績 ］

累計助成件数：8,379件
累計助成金額：202億9,000万円（2023年3月時点）

https://www.toyotafound.or.jp/

地方の教育支援の一環として水上集落の小学校でインタビュー（カンボジア）

日本　主体：一般財団法人 トヨタ女性技術者育成基金
（トヨタ自動車が設立、グループ10社が参加）

エンジニアを目指す女子学生へのサポート活動「トヨタ女性技術者育成基金」

［ 概要 ］

将来、労働人口が減少していく中で女性の活躍は不可欠であり、また日本のモノづくりが、お客様の多様なニーズに応え続けるためには、さまざまな価値観を持った人材が必要です。しかし、製造業の女性技術者はまだまだ少ないため、もっと多くの女性技術者に活躍してほしいと考え、2014年にトヨタ女性技術者育成基金を設立しました。
具体的には、①中高生に理工学系進路に興味を持ってもらうためのエンジニアキャリアの魅力紹介活動と、②理工学系に進学した女子大学生への奨学支援プログラムとして、奨学給付とともに現役女性エンジニアや志を同じくする仲間との交流を通じて、将来を考えることができる育成プログラムを行っています。

［ これまでの実績 ］

【理系キャリア紹介事業（高校生対象）2023年度実績】
愛知県を中心に14校、延べ約2,300人（男女）の生徒へ出前講座（面着）を実施
【奨学支援事業（理系女子大学生対象）2024年1月時点】
累計96大学、929人の学生に対して奨学支援を実施

https://www.toyota-rikeijosei.or.jp/

トヨタ女性技術者育成基金HPトップ画面

国内外 主体:一般財団法人 トヨタ・モビリティ基金(TMF)

「トヨタ・モビリティ基金」すべての人に移動の自由を

[概要]

トヨタ・モビリティ基金は、豊かなモビリティ社会の実現とモビリティ格差の解消をめざし2014年8月に設立されました。さまざまなNPO・研究機関などと連携し、世界のモビリティ分野の課題の解決に取り組んでいます。

https://toyotamobilityfoundation.jp/

コラム

アイデアの社会実装プロジェクト「Mobility for ALL」

参加チームのアイデアについて障がいのある方々と意見交換

「もっといいモビリティ社会をつくる」をコンセプトに、異なる3部門テーマからアイデア×ソリューションを募るコンテスト「Make a Move PROJECT」。その「Mobility for ALL ～移動の可能性をすべての人に」部門において、障がいの有無などにかかわらず誰もがモータースポーツを楽しむことができるアイデアの公募を行っています。

2022年に始まった本コンテストは、当事者視点や、提案革新性の観点から、外部有識者などの意見も踏まえて選考を行っています。採択されたチームは活動資金の提供を受け、実証実験に向けて準備を行ないます。実証実験では多くの当事者に協力いただき、フィードバックを得てさらなる改善を重ねながら社会実装を目指します。

大切なのは、徹底した当事者視点。移動に制限がある方、困難を感じている方とともに知恵を出し合って、解決策を見いだせるような取り組みを応援しています。

● 実施中 ● 完了

ユバスキュラ(フィンランド)
持続可能な社会の実現を目指したまちづくり

ビットブルク(ドイツ)
住民の困りごとを支援するマッチングアプリ

兵庫県豊岡市
豊かに暮らし移動し続けられるコミュニティづくり

日本国内(沖縄県、千葉県、豊田市、佐賀市など)
交通安全に関する各種取り組み

日本国内
地域の移動の仕組みづくり

日本国内
自動車販売店各社による地域支援活動

日本国内
水素社会構築に向けた共同研究助成

日本国内
障がいの有無にかかわらずスポーツ観戦を楽しむアイディアコンテスト

ジンバブエ、ケニア
アフリカの農村におけるモビリティモデルの構築

デリーなど7都市(インド)
地下鉄へのアクセス向上

バンコク(タイ)
交通渋滞の緩和

全世界
サステナブル・シティズ・チャレンジ
都市のモビリティ課題解決を目指すコンテスト

インディアナ(アメリカ)
オンデマンド乗合サービスによる交通アクセス改善

イギリス　主体：トヨタ・モーター・マニュファクチャリングUK（TMUK）

TPSを組み合わせた慈善事業のための寄付

［ 概要 ］

TMUKの慈善信託は、必要最小限の資源で最大限の利益を上ることを目的としたリーン開発を通じて慈善事業のための寄付を募っています。この活動では、寄付をした外部組織に対し、従業員ボランティアがトヨタの生産・管理システムについての説明するセミナーを行っており、寄付と「TPSのお返し」を組み合わせた内容となっています。セミナーはTMUKの製造拠点で行われており、TPSが実際にどのように実施されているかを理解してもらうことを目的に、コロナ禍以降はVR（仮想現実）技術を活用しています。こうした取り組みによって工場近隣の100近い慈善団体や組織に対する的を絞った支援が可能になり、地域社会における健康とウェルビーイング、社会的インクルージョン、交通安全の強化を直接的に支援しています。

［ これまでの実績 ］

2023年の寄付金：51万9,870ポンド

慈善事業のための小切手の贈呈（2022年）

ポーランド　主体：トヨタモーターマニュファクチャリングポーランド（TMMP-W、TMMP-J）

「Good Ideas Change Our World」を通じてさまざまなプロジェクトを実現

［ 概要 ］

2011年、TMMPは地域の問題を解決し、地域社会の生活水準の向上を目的としたトヨタの基金「Good Ideas Change Our World」を創設しました。財団、協会、スポーツクラブ、公立学校、大学などのNPOは、年に一度、助成金コンペティションで資金援助を申請することができます。
このコンペティションは、プロジェクトがトヨタの優先課題に合致していること、創意工夫／革新性を発揮していること、地域社会に恒久的かつ物理的な変化をもたらすものであること、地域社会のニーズを満たすものであること、地域社会の問題を解決するものであることを評価の基準としています。プロジェクトの一部は、追加の補助金を提供する地元企業の支援によって実現しています。それらの企業には、TMMPを訪問してトヨタの生産システムを学ぶ機会を提供しています。

［ これまでの実績 ］

2023年に実現したプロジェクト数：11件
実現したプロジェクトの累計数：79件（2023年12月時点）

“Good Ideas Change Our World”基金によって実現されたプロジェクト例：育苗活動

社会動向と社会貢献活動の歩み

社会の動向（日本）

高度成長期　公害問題

- 東京オリンピック（1964）
- 初の高速道路開通（1964）
- 大阪万博（1970）

マイカー時代

- 日本のGNP世界第2位（1968）
- 国内自動車保有台数1,000万台超え（1967）
- 交通事故死亡者数過去最高の16,765人（1970）

第一次交通戦争

バブル経済　環境問題

- 輸出自主規制の日米合意（1981）
- プラザ合意（1985）

石油危機

排出ガス規制

第二次交通戦争

バブル経済崩壊

- 経団連企業行動憲章（1991）
- 経団連地球環境憲章（1991）
- 阪神・淡路大震災（1995）

ボランティア元年（1995）

- モントリオール議定書発効（1989）
- 消費税導入（1989）
- 日本自動車工業会「交通安全特別委員会」（1989）
- 「環境基本法」制定（1993）

企業の社会貢献活動・メセナ活動への関心高まる

- 経団連「1%クラブ」設立（1990）
- 「公益財団法人企業メセナ協議会」設立（1990）

トヨタの動向

国内工場新増設による量産体制強化

国内販売体制の拡充

海外生産の本格化

- 工販合併（1982）
- 北米での現地生産開始（1984）
- 北米でレクサスブランド設立（1989）

環境問題への全社取り組み

- トヨタ基本理念（1992）
- トヨタ地球憲章（1992）
- トヨタ環境取組プランスタート（1993）

年 / トヨタの主な社会貢献活動

1960～1970年代

年	トヨタの主な社会貢献活動
1969	「トヨタ交通安全キャンペーン」開始（～2017）
	「トヨタサマースクール」開始（～2019）
1973	「聾学校児童のトヨタ見学会」開始
1974	「トヨタ財団」設立
	「トヨタ鞍ケ池記念館」開館
1975	「トヨタセーフティスクール」開始
1976	「トヨペットグリーンキャンペーン」開始（～2023）
1979	「トヨタ子ども110番」開設（～2009）

1980年代

年	トヨタの主な社会貢献活動
1981	「トヨタコミュニティコンサート」開始
	「豊田工業大学」開校（1984年大学院設置、2003年シカゴ校開校）
1985	「トヨタ青少年ミュージックキャンプ」開始（現トヨタ青少年オーケストラキャンプ）
1986	「トヨタミュージックライブラリー」開設（～2021）
1987	「トヨタ・ヤングドライバーズコミュニケーション」開始（現「トヨタドライバーズコミュニケーション」）
1988	「豊田佐吉記念館」開館
	タイ「ホワイトロード」キャンペーン開始
1989	「社会貢献活動委員会（豊田章一郎社長が委員長）を設置
	「トヨタ博物館」開館

1990年代

年	トヨタの主な社会貢献活動
1990	経団連「1%クラブ」加入
1991	米国「トヨタ　親子学習プログラム」開始
	「クラシックカーフェスティバル」開始
1992	南アフリカ「トヨタティーチ」開始
1993	「トヨタボランティアセンター」設立
1994	「トヨタ産業技術記念館」開館
1995	「社会貢献活動理念」を制定
	「トヨタ・ロビーコンサート」開始
1996	「科学のびっくり箱！なぜなにレクチャー」を開始

社会の動向（日本）

バブル経済崩壊 ／ 新興国の台頭、グローバリゼーションの拡大

- 世界の人口が60億人を突破（1999）
- **地球環境問題への関心が高まる**
- NPO法（1998）・・・NPO活動の活性化
- ETCシステム全国運用開始（2001）
- **CSR元年（2003）**
- **若者のクルマ離れ**
- **平成の大合併による新しいまちづくり（1999～2010）**
- 京都議定書発効（2005）
- 愛・地球博（2005）
- リーマンショック（2008）

トヨタの動向

- 「トヨタ環境フォーラム」初開催（1997）
- 初代プリウス発売（1997）
- 環境部発足（1998）
- 中国での現地生産開始（2000）
- **グローバリゼーションの急拡大**
- CSR方針「社会・地球の持続可能な発展への貢献」（2005）
- 国内でレクサス店の営業開始（2005）

年 ／ トヨタの主な社会貢献活動

1990年代

年	トヨタの主な社会貢献活動
1996	「トヨタ・アートマネージメント講座」開始（～2004）
1997	「トヨタ・エイブルアート・フォーラム」開始（～2004）
1997	「トヨタの森」を一般公開
1997	「トヨタ・マスター・プレイヤーズ・シリーズ」開始（現「ウィーン・プレミアム・コンサート」）
1997	「トヨタふれあいコンサート」開始（～2003）
1998	「エコのもりセミナー」開始（～2005）
1999	「在日ブラジル人自動車整備技術修得コース」開始（～2017）
1999	「MEGA WEB」オープン（～2021）

2000年代

年	トヨタの主な社会貢献活動
2000	「トヨタ・チャイルドセーフティコミュニケーション」実施（～2012）
2000	「トヨタ環境活動助成プログラム」開始（～2021）
2001	「トヨタ コレオグラフィーアワード」創設（～2016）
2001	中国「砂漠化防止活動」開始
2004	「トヨタ・子どもとアーティストの出会い」開始（～2015）
2004	「ネットTAM」開設
2005	「トヨタ白川郷自然學校」開校
2005	「トヨタ交通安全センター モビリタ」設立
2005	「社会貢献基本方針」を策定（P4掲載）
2006	「体験型交通安全イベント」開始
2006	「あんぜんのこどもサイト『こどもビリタ』」開設（現「トヨタこどもこうつうあんぜん」サイト）
2006	中国「トヨタ助学金プログラム」開始
2007	「社会貢献推進部」発足（従来活動していた部署を統合）
2007	「CSR委員会／社会貢献活動分科会」設置
2007	「トヨタ三重宮川山林プロジェクト」開始
2008	フィリピン「熱帯雨林再生活動」開始（～2013）
2008	「トヨタ原体験プログラム」開始（現「トヨタ未来スクール」）
2009	「豊森」プロジェクト開始、「豊森なりわい塾」開講（～2022）

社会の動向（日本）

さらなるグローバリゼーションへ

- 東日本大震災（2011）
- 「持続可能な開発目標（SDGs）」国連で採択（2015）
- 平成28年熊本地震（2016）
- CASE（2016-）
- 令和元年（2018）
- 消費税率10%へ引上げ（2018）
- 東京オリンピック・パラリンピック開催（2021）
- COVID-19（2020-）
- 令和6年能登半島地震（2024）
- 日本国際博覧会（2025）

トヨタの動向

- リコール問題（2010）
- トヨタグローバルビジョン発表（2011）
- ココロハコブプロジェクト（2011）
- トヨタ自動車東日本株式会社設立（2012）
- 燃料電池自動車「MIRAI」発売（2014年）- 2代目発売（2021）
- 未来都市「Woven City」開発スタート（2021）
- EV戦略表明（2021）
- 「富士モータースポーツフォレスト」プロジェクト推進（2022）
- トヨタグループビジョン「次の道を発明しよう」発表（2024）

トヨタの主な社会貢献活動

年	トヨタの主な社会貢献活動
2011	「TABLE FOR TWO」導入
	トヨタグループ関係会社による「東日本大震災被災地復興支援ボランティア活動」開始
	ブラジル「トヨタ・コスタ・ドス・コライス」プロジェクト開始
2012	「TOYOTA SOCIAL FES!」開始
2014	「トヨタ モビリティ基金」設立
2015	「トヨタ女性技術者育成基金」設立
	「MIRAIへつなぐ「夢の教室」in豊田」開始
2016	「スペシャルオリンピックス日本」とナショナルパートナー契約締結
2017	「スペシャルオリンピックス国際本部」とグローバルパートナー契約締結
2018	「トヨタ災害復旧支援（TDRS）」開始
2019	「モバイルトイレプロジェクト」立ち上げ
2021	メセナアワード2021「メセナ大賞」受賞
2022	「富士モータースポーツミュージアム」開館
2023	「30by30」における自然共生サイトに社有林など4サイトが認定

［クルマ館］国内外の代表的な車両約 140 台展示

［クルマ文化資料室］約 4000 点の文化資料展示

トヨタ博物館
TOYOTA AUTOMOBILE MUSEUM

開館時間	9:30〜17:00（入館受付は16:30まで）	休館日	月曜日（祝日の場合は翌日）
所在地	〒480-1118 愛知県長久手市横道41-100	TEL	0561-63-5151
入場料	大人 1,200円 / シルバー(65歳以上) 700円 / 中高生 600円 / 小学生 400円		
URL	https://toyota-automobile-museum.jp/		

トヨタの今がここに

トヨタは世界中の人たちが幸せになるモノやサービスを提供すること
「幸せを量産すること」を使命とし創業以来様々な事業活動・社会貢献活動を行っています。
1977年11月、会社設立40周年を記念して建てられたトヨタ会館では
そんなトヨタのクルマづくりに関する最新技術や新型車
トヨタが目指す「幸せの量産」への取組みをご紹介しています。

■ 開館時間　9：30〜17：00
■ 休館日　　日曜日、年末年始、ゴールデンウィーク、夏季連休等
■ 入館料　　無料

【お問い合わせ窓口】
〒471- 8571 愛知県豊田市トヨタ町１番地
TEL 0565-29-3345 （受付時間：月〜土 9：00〜17：00）

トヨタ会館 TOYOTA KAIKAN MUSEUM

TOYOTA
DRIVER
COMMUNICATION
トヨタ ドライバーコミュニケーション
知識×体験
キケンを安全に体験！モビリタの安全講習プログラム。
富士スピードウェイにある、サッカーグラウンド約 14 個分の広いコースを走ります。
「走る、曲がる、止まる」の限界を体感すると、どんな運転が安全なのか見えてきます。
それぞれの対象・ニーズに合わせた様々なプログラムを専任インストラクターが丁寧に指導します。
運転姿勢の確認
35度傾いた走路で、あなたの運転姿勢をチェック。
高速フルブレーキング
時速100キロから思いっきりブレーキを踏んで急停止を体験。
ワインディング低ミュー路(雪道)走行
ツルツルと滑りやすい路面で、障害物を回避。安全装備の効果を体感。
＊実際の講習車は写真と異なる場合があります。
その他、始業点検・死角の確認・緊急危険回避　飲酒運転疑似体験 等
企業・団体
半日講習 / 一日講習 /
講習ご検討企業様無料体験会
一般・個人
総合トレーニング /
レーシングドライバーから学ぶ特別プログラム
施設利用随時受付中
(平日・休日)
モビリタ内施設 / コース全域
トヨタ 交通安全センター モビリタ
www.toyota.co.jp/mobilitas/
0800-123-0250
Fax. 0800-123-5250
月～金：9:30～12:00 13:00～17:00
土 日 祝日 年末年始休く (FAX は24時間受付)
FUJI SPEEDWAY
トヨタ 交通安全センター モビリタは、トヨタ自動車株式会社の委託により、富士スピードウェイ株式会社が運営します。
トヨタ交通安全センター
TOYOTA Safety Education Center
mobilitas
モビリタ
モビリタ 検索

START YOUR IMPOSSIBLE
SPECIAL OLYMPICS
PLAY UNIFIED
~~FOR~~ with
ボールへのサインには、強い想いが込められています。
6本の腕が伸び、手をつなぎ合うスペシャルオリンピックスのロゴ。
それは、多様な才能と才能が手を取り合い、ひとつの世界をつくる姿とも言われています。
知的障がいのあるアスリートの飾り気のない笑顔にふれ、私たちは気がつきました。
これからは、誰かのために、の"For"ではなく、寄り添う"With"の心でスタートしよう。
学び合い、支え合えば、もっと自由でワクワクする未来へ行ける。
私たちは、スペシャルオリンピックスのグローバルパートナーになりました。
それぞれの立場を超えて、共に挑戦し、共に成長し、共に歩んでいくために。
TOYOTA
トヨタ自動車株式会社 | http://www.toyota.co.jp

トヨタ自動車株式会社

発行部署／社会貢献推進部

https://global.toyota/jp/sustainability/esg/social-contribution/

2024年3月発行